

5 試験研究

5.1 試験研究活動

5.1.1 環境科学国際センター研究所中期計画の改訂

環境科学国際センターでは、重点的に取り組む研究課題や研究推進体制の整備などについて記述した環境科学国際センター研究所中期計画を、平成21年2月に策定した。この中期計画には、環境行政への貢献を担保するため、埼玉県環境基本計画などの行政計画と整合性を図ることが謳われている。中期計画の基盤となる環境基本計画が改訂の時期を迎えたため、中期計画についても、23年度から改定作業を進めてきた。また、平成23年3月には東日本大震災が発生するなど、中期計画策定後の社会経済情勢も大きく変化している。中期計画の改訂にあたっては、こうした点も十分に踏まえ、時代の要請にあったものとする事とした。

改訂にあたり、まず各研究領域から若手を中心にメンバーを募って作業チームを編成した。作業チームは各行政計画の動向や研究所の将来像を見据えて中期計画の見直しを行い、改訂素案を作成した。これを基に研究部会で議論を重ね、また、環境部内の各課への意見照会なども行った上で、中期計画改訂版を作成した。改訂時期は平成25年3月である。

主な改訂点としては、①「健全な水環境」と「環境リスク対策」に分かれていた大気、水質に関する研究課題を、環境基本計画上の位置づけに合わせて、ひとつの重点課題にまとめた。②環境リスク対策の対象として、放射線物質による汚染を加えた。③人材の確保について、海外派遣など新たな事業展開を含めた記述に改めた、などである。

今後は中期計画改訂版に基づき、外部資金の獲得も含めて積極的に試験研究を進めるとともに、研究の成果を生かして環境学習、国際貢献などを展開していきたいと考えている。

5.1.2 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

地球温暖化は、今や主要な環境問題の一つになっている。これは単に気温が上昇するという現象に止まらず、降水量への影響や自然環境への影響、健康影響など人間の生活基盤や生態系に様々な影響を与える。当初、温暖化影響は北極海における急激な氷の減少や、海面上昇による低海拔島嶼への浸水など日本から離れた場所の現象が目撃されたが、近年徐々に日本や埼玉県など中庸な気候の地域にもその影響が及びつつある。

埼玉県は国内でも特に夏場の気温が高い地域として知られており、平成19年8月16日には熊谷気象台で日本の気象官署・アメダスにおける最高気温40.9℃を記録した。また、気温上昇も激しく、熊谷気象台の年平均気温の推移を見ると、気温上昇は100年に換算し2.1℃となっており、気象庁の「気候変動監視レポート2011」で報告されている日本の過去100年の平均気温上昇率1.2℃よりかなり高い。このような埼玉県で起きている極端な高温や急激な昇温現象は、地球規模の温暖化だけではなく、都市部の気温が郊外より高くなるヒートアイランド現象との複合的な影響により引き起こされていると考えられるが、いずれにしても埼玉県の昇温傾向は顕著であり様々な影響も現れはじめています。

埼玉県ではこれまでも地球温暖化対策地域推進計画等に基づき、様々な温暖化対策やヒートアイランド対策を実行してきた。平成21年2月には、「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050ー埼玉県地球温暖化対策実行計画ー」を策定し、中期的温室効果ガス削減目標と実現のための施策を示し推進を図ってきた。また、平成21年3月には「埼玉県ヒートアイランド現象対策ガイドライン」を策定し、具体的なヒートアイランド現象対策を提示した。さらに、平成23年からは県独自の取り組みとして目標設定型排出量取引制度をスタートさせた。

このように、埼玉県では、近年、これまで以上に積極的な温暖化対策やヒートアイランド対策を展開している。これらの状況に呼応し、埼玉県環境科学国際センターでは、平成22年4月に新たな担当として「温暖化対策担当」を設置し温暖化対策に関する研究に本格的に取り組みはじめた。温暖化対策担当では、以前から実施してきた二酸化炭素やフロン類などの温室効果ガスモニタリング、ヒートアイランド現象の把握を目的とした県内温度実態調査に加え、環境省の研究資金である環境研究総合推進費を獲得し、大学や他の都県と共同で「地域社会における温暖化影響の総合的評価と適応策に関する研究」に組み込み、農業分野などを対象に温暖化対策や温暖化適応策に関する研究を行っている。また、平成23年度からは、埼玉県の温室効果ガス排出量推計や県内全市町村の温室効果ガス排出量推計にも取り組んでいる。

(2) 大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、大気汚染物質の固定及び移動発生源の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の

達成率が向上し、ともに平成19年度以来環境基準をほぼ100%達成し継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は依然として0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位であることから埼玉県における重要な課題となっている。また、微小粒子状物質(PM_{2.5})についても環境基準達成率0%であり、最近ではアジア各地の高濃度汚染が注目され、日本国内でも越境汚染を含めた健康影響を中心に関心が高まっている。このほか、長期的暴露による健康影響という観点から、様々な大気中の有害化学物質も注目されている。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。このほか環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。

埼玉県5か年計画(安心・成長・自立自尊の埼玉へ)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の排出量削減が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、光化学大気汚染を重点的な対象としてとりあげ、独自の自主研究課題、あるいは環境部大気環境課等と連携した行政令達課題として、その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質の環境動態を総合的に調査研究している。広域大気環境に関しては、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。また、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、新たな汚染を引き起こさないための監視という面で行政を支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。これらの研究遂行のため、国立環境研究所、電力中央研究所、埼玉大学、早稲田大学、愛媛大学、大阪府立大学、高崎経済大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(3)自然環境担当

近年の僅か数十年間で急速に地球環境が劣化した。人類生存のための国際的規範となった「持続可能な社会」の実現には地域生態系の保全が不可欠であり、首都圏埼玉の重要な責務でもある。自然環境担当では、持続可能な社会の基盤となる健全で多様な生態系の保全を目指して、以下の研究分野に取り組んでいる。

①生物多様性の現況、変化の把握、②動植物に及ぼす開発や汚染の影響評価、③自然生態系の持つ環境保全機能評価、④生物の保全、環境制御手法の開発

これらの課題は全て埼玉県環境基本計画で「再生したみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり」、「環境の保全・創造に向けて各主体が取り組む地域社会づくり」の項に位置づけられており、関連する自然環境課、大気環境課、水辺再生課、農業政策課から令達事業を受託すること等で連携している。

平成24年度は自主研究課題として、「埼玉県における回遊魚の遡上および陸封に関する実態把握」、「光化学オキシダントによる植物被害の軽減手法に関する検討」の2課題に取り組んだ。

また、行政令達事業としては、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種(ムサシトミヨ、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ等)を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父の気象観測モニタリングとシカの食害等を調査する「野生生物保護事業」、光化学スモッグによる植物影響を調査する「大気汚染常時監視運営管理事業」、河川の生態系の現況を確認するため、魚類等の水生生物を採捕調査により生息状況を把握する「小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡに係る魚類調査」、ホウレンソウ等の葉物野菜の光化学オキシダント被害軽減技術について検討する「光化学オキシダントによる軟弱野菜の被害軽減技術の確立」の5課題に取り組んだ。(独)日本学術振興会科学研究費補助事業では自然環境担当が中心となり、山西農業大学、上海大学、吉林省農業科学院と共同して中国の試験地で「中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技術の確立」を行った。他機関との連携では、国立環境研究所とのⅡ型共同研究として「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」、埼玉大学が中心となって進めている(独)日本学術振興会科学研究費補助事業「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」、「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく光化学オキシダントの作物環境影響評価法」、「機能的光断層画像法による植物の無侵襲環境ストレスモニタ法の開発」にそれぞれ取り組んだ。

国際貢献活動として、JICA草の根技術協力事業(中国山西省)、山西省を中心とした環境技術交流及びビジネス需要の掘り起こしとして技術協力、その他の上海大学等の環境研究等を支援した。

さらに、県民に対する環境学習支援として、県民参加の環境調査や講演、小学校等での総合学習支援、動植物観察会の講師等に積極的に取り組み、平成24年度はこれらを総計で40回以上実施した。

(4)資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当では、産業廃棄物及び一般廃棄物について国や埼玉県が推進する循環型社会形成に向けた施策を支援するとともに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究を実施している。

行政令達業務は、廃棄物の排出、中間処理、最終処分 of 適正化、再資源化の推進に必要な技術支援を行うとともに、不法投棄等の不適正処理に伴う環境保全上の支障の除去あるいは低減化を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。最終処分場の管理に関する業務、産業廃棄物の山についての調査・対策、一般廃棄物の不燃ごみ・粗大ごみの適正処理の検討を継続しており、不法投棄関連では廃油等放置現場調査などの事案への対応を行った。

研究業務としては、廃棄物の焼却処理や破砕選別処理、そして埋立処分について安全・安心、さらには地球温暖化防止対策が求められており、そのための調査・研究を継続している。最近では、今後も排出量の増加が予想されるアスベストに関して、将来的な健康被害防止の観点から研究を行っている。最終処分関連では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心に処理するための埋立資材の開発を始め、環境浄化を見据えた工学的な要素を取り込んだ研究を行ってきた。近年は廃棄物処理技術、再資源化についても地球温暖化対策の視点を加え、埼玉県の地域性を考慮して調査・研究を行っている。また、首都圏に位置する埼玉県では、不法投棄が後を絶たないが、それによる生活環境保全上の支障や廃棄物の除去方法、さらに有害物質の汚染範囲や有害ガス、温暖化ガスの発生状況を現場で迅速に推定するための技術開発を積極的に行っている。

これらの研究の一部を環境省や文部科学省等からの外部資金により行っており、現在、建設廃棄物破砕選別残渣からのアスベスト濃縮方法構築や堆積廃棄物の斜面安定性評価、農業地域のカスケード型資源循環システムの構築、アスベスト含有建材の選別技術の開発、一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究、産業廃棄物マニフェスト情報に関する研究、最終処分場機能の健全性の検査、回復技術に関する研究、中間処理残渣主体埋立地に対応した安定化技術の開発等多岐にわたる研究事業を当センター単独あるいは国立環境研究所・大学等と共同で継続実施している。

さらに、JSTとJICAの共同事業である地球規模の環境問題課題の解決に資する研究(SATREPS)「スリランカ廃棄物処分場における汚染防止と地域特性を活かした修復技術の構築」やJICA草の根技術協力事業「山西省環境技術支援事業」では、研究だけでなく国際貢献として、日本側研究機関だけでなく、相手国の大学、研究所、官庁等とも連携して研究を進めている。

(5)化学物質担当

埼玉県環境基本計画では、「環境負荷の少ない安心・安全な循環型社会づくり」に係る施策の一つに「化学物質対策の推進」を掲げており、化学物質の適正管理による環境リスクの低減、化学物質に関する正しい情報共有・相互理解の推進を目的としている。化学物質担当では、化学物質対策に関する行政的方向性を踏まえ、ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術や処理技術の改良・開発に関する調査研究を実施している。近年、残留性の高い化学物質や未規制の有害化学物質による環境汚染が懸念されている。これまでは、微量有害化学物質や新たに注目される環境汚染物質に関する分析方法の開発・改善、及び環境モニタリングを中心に調査・研究を行ってきたが、今後は化学物質の環境動態・汚染機構の解明、環境リスク評価なども積極的に実施する必要がある。

自主研究事業は、①ダイオキシン類が大気中から河川水へ移行するプロセスを解明するため「降水によって水環境に移行しうる燃焼由来ダイオキシン類に関する研究」、②近年、新しいタイプの殺虫剤として広く使用されているネオニコチノイド系殺虫剤の環境汚染実態を把握するため「県内の河川におけるネオニコチノイド系殺虫剤の汚染実態の把握」、③環境残留性や生物蓄積性が懸念されている環状シロキサンの発生源・環境汚染レベル等を把握し、環境影響評価に資するため「環状シロキサンの分析法開発と環境汚染実態解明」を実施した。外部研究費による代表研究としては、「PFOS、PFOA及びそれらの前駆物質の起源と水環境動態の解明」、「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」を実施した。また、外部研究費による分担研究として、名城大学や静岡県立大学などの外部機関と連携し、「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」、「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」を進めた。

行政令達事業は、汚濁原因調査業務として古綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る潮位変動時水質調査・同一水塊水質調査等、定例的業務としてダイオキシン類発生源調査(排出水、排ガス、ばいじん等)、ダイオキシン類環境調査(大気、土壌)、及び工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため、農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる精度管理を行った。

今年度の特筆すべき事項として、利根川水系におけるヘキサメチレントラミン流出事案に係る緊急対応の中で、当該物質

の迅速分析法を短期間で開発し、問題解決に貢献することができた。

(6)水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で1位であることから、「川の国埼玉」をキャッチフレーズに様々な事業に取り組んでいる。河川環境については、過去に大きな問題となった水質汚濁は大幅に改善され、BODの環境基準達成率は全国レベルの約90%にまで達している。一方、昨年度、見直し策定された「埼玉県環境基本計画」では、長期的な目標として「再生したみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり」が設定された。特に、河川等の保全と再生に関しては、人とのかかわりを通して、水や生き物の豊かさが育まれる水辺が保全・再生され、将来にわたって県民が水辺の恩恵を享受できる豊かな環境の形成を10年後の姿としている。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。公共用水域では、河川の環境基準点における水質調査を継続して実施し、基準を超過した河川では原因究明のための追跡調査を行っている。また、河川等における異常水質事故では、緊急時や原因究明が困難な場合に調査分析等を担当する。平成24年度は、5月に利根川水系においてホルムアルデヒド水質事故が発生し、埼玉県を含めた1都4県の水道に甚大な被害が及んだ。当センターでは、汚染範囲の迅速な把握と汚染源の推定、さらに原因物質であるヘキサメチレンテトラミンの特定を行い、これら調査結果等に基づき行政措置等が進められた。非常に希な大事故であったが、他機関との連携やセンター内でのグループ横断的な対応が課題の早期解決に繋がった。工場・事業場の排水水について、一部試料を委託業者とクロスチェック分析を行うことで結果の信頼性を担保している。また、県内の計量証明事業者等を対象に、同一の標準試料を一斉に分析して精度管理を行う事業を担当している。「五感による水辺環境指標の策定」、「川の国埼玉検定」、「河川類型指定の見直し」などの事業にも積極的に協力している。

研究事業では、水環境の汚濁特性に関する研究として、河川での内部生産現象の実態解明と影響評価、湖沼に蓄積する難分解性有機物の藻類影響評価試験法開発、浅い富栄養化池沼の好気・嫌気におけるシードバンクポテンシャルの把握などを行った。水環境の修復及び水処理技術に関する研究として、大型二枚貝の多角的活用を目指した二枚貝の安定供給化の検討、下水処理プロセスにおけるN₂O生成ポテンシャル評価、高度省エネ低炭素社会型浄化槽の新技术・管理システム開発などを行った。これら研究を推進するために、大学、企業、研究機関と連携する他、外部資金の獲得を積極的に行い、国内及び海外での学会等で研究成果を公表している。

(7)土壌・地下水・地盤担当

土壌・地下水・地盤担当が担当する業務は多岐に渡り、その内容は①土壌・地下水汚染に関する調査研究、②地質地盤情報の収集・管理・解析、③地質地盤被害に関する調査・研究、④騒音振動公害に関する調査に分けることができる。これらに加えて平成24年度は⑤放射能分析の業務を行った。

①については、水質汚濁防止法に基づく地下水の常時監視、土壌・地下水汚染発覚時の発生源特定など行政令達に基づく業務のほか、行政課題の解決に役立つ技術開発等の研究を行っている。近年の地下水汚染に関する研究としては、地下水質特性の総合評価とその応用に関する研究があげられる。これは、井戸の諸元情報が乏しく帯水層の特定が困難な事例に対処するため、諸元が明確な井戸について水素イオン濃度等の基本情報、重金属類濃度及び主要溶存イオン濃度を調査収集し、帯水層深度による県内地下水質の地域特性を明らかにしようとするものである。また土壌汚染に関する研究としては、自然由来の土壌汚染の抑制を目的とした海成堆積層の風化メカニズムと有害重金属類の溶出挙動の解明に関する研究、及び有害重金属類が植物に吸収される際の移行特性を明らかにすることを目的とした有害重金属類の土壌中の存在形態の解明に関する研究を行っている。②については、県が保有するボーリングデータをデータベース化した「地質地盤インフォメーションシステム」を運用し、地下構造情報の収集・管理及び関係課所への提供を行うとともに詳細解析を施して地域ごとの環境特性の相違を明らかにするなどデータの高付加価値化を図っている。今年度は平成18年度に発行した「埼玉県地質地盤資料集」に新たにボーリング柱状図や当グループの調査結果を追加した改訂版を発行した。また、近年の地球温暖化問題に鑑み、再生可能エネルギーである低温地熱資源に関する情報の収集整備及び地域特性解析に関する研究を実施している。この研究の一環として、県内の観測井を対象に地下の温度分布を実測調査するとともに、地質・地下水等に関する情報を用いて地中熱利用に関するポテンシャルマップを作成した。③については、地下水汚染や地震など、地域の地質地盤と密接に関連する問題に対処するために、地下情報の取得に必要な物理探査技術について、その適用方法の検討や新たな探査技術の開発などに取り組んでいる。④については、水環境課及び市町村と連携して苦情を解決するための調査・技術指導などを行っている。⑤については、文科省が実施している精度管理に参加して測定精度の確保を図るとともに、大気浮遊粉じん、県内河川水及び底質、当所生態園の土壌及び池底質の放射能濃度を測定し、県のホームページを通してその値を公表した。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

(18課題)

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
温暖化および大気環境変化が埼玉県の植物に及ぼす影響予測 (平成22～24年度)	温暖化および光化学オキシダント濃度上昇等の大気環境変化が、農作物などの植物に及ぼす影響を県以下レベルの空間スケールで定量的に評価する。これにより地域ごとの適切な対策の検討・立案における科学的根拠を行政に提供するだけでなく、「わが町の影響はどうか?」という県民の問いに対する科学的な答えを提供する。	増富祐司 三輪誠 米倉哲志 嶋田知英 金澤光 竹内庸夫	115頁
自然環境データベースのGISによる構築・運用ー自然環境変遷の把握とその影響ー (平成22～24年度)	埼玉県内の同一箇所、多時期のGISデータを対象に解析を行い、埼玉県の土地利用や自然環境の変遷などを把握し整理する。また、その様な変遷の影響についても検討を行うとともに、得られた成果はインターネット等を利用し、県民に提供する。	嶋田知英 三輪誠 増富祐司	116頁
工場内で利用可能なVOC局所対策手法の開発 (平成23～24年度)	使用済みウエス入れを対象として、VOC排出を効果的に抑制するための方法の検討、及び酸化チタン光触媒の利用等によるVOC濃度低減方法(装置)を開発する。	米持真一 梅沢夏実 佐坂公規	117頁
微小有機成分粒子の一次排出および二次生成の寄与割合推定に関する基礎的研究 (平成23～26年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})のバイオマス燃焼起源や二次生成の指標となる有機成分を測定し、大気中での動態を明らかにするとともに、一次排出及び二次生成の寄与割合を適切に推定するための手法検討やデータ収集などの基礎的な研究を行う。	長谷川就一 米持真一 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規	118頁
微小エアロゾルの通年観測試料を活用した各種大気イベントの解析 (平成24～26年度)	当センターでは全国的にも事例の少ない日単位のPM _{2.5} の通年測定を2009年4月から継続しているが、同時に、週単位のPM _{2.5} およびPM ₁ の通年測定も実施している。本課題では、これら試料を活用して、高濃度事例や越境大気汚染などの各種大気汚染イベントを評価する。	米持真一 梅沢夏実 長谷川就一 松本利恵	119頁
埼玉県における回遊魚の遡上および陸封に関する実態把握 (平成23～25年度)	最近、東京湾から埼玉県内の河川に、魚類、円口類および甲殻類に属する生物種の遡上が多く見られているが、その実態は明らかにされていない。本研究の目的は、遡上する生き物の種類や遡上する時期等を調査し、県民にわかりやすい生き物の遡上情報を提供するとともに、魚類のうち、 Ayuやワカサギなどの海と淡水を行き来する両側回遊魚が淡水に陸封される実態を調査して、生物多様性保全の基礎資料とすることである。	金澤光 三輪誠 王効挙 米倉哲志	120頁
光化学オキシダントによる植物被害の軽減手法に関する検討 (平成23～25年度)	埼玉県では、夏季の光化学オキシダント濃度が著しく高く、その主成分であるオゾンによる植物被害が顕在化している。例えば、本県の主要農作物であるホウレンソウでは、春から初夏に生じる比較的高い濃度のオゾンの影響により葉に可視被害が発現し、それが原因で出荷不能になる事例が報告されている。そこで、本研究では、オゾンによるこのような植物被害を軽減するため、オゾンに強い品種を選抜したり、オゾン被害を軽減する栽培手法等を検討し、それらを提案することを目指す。	三輪誠 王効挙 米倉哲志 金澤光	121頁
降水によって水環境に移行しうる燃焼由来ダイオキシン類に関する研究 (平成23～25年度)	廃棄物焼却炉等の排出ガスとして大気中に放出され、雨を介して河川に移行するダイオキシン類の量を調査し、大気環境が水環境に与える影響を考察する。	養毛康太郎 大塚宜寿 野尻喜好 松本利恵	122頁

テーマ名・期間	目 的	担 当 者	概要
県内の河川におけるネオニコチノイド系殺虫剤の汚染実態の把握 (平成24～25年度)	水環境試料を対象としたネオニコチノイド系殺虫剤の分析方法を確立するとともに、県内の河川における分布を明らかにし、汚染実態を把握することを目的とする。	大塚宜寿 茂木守 野尻喜好 蓑毛康太郎 堀井勇一	123頁
環状シロキサンの分析法開発と環境汚染実態解明 (平成24～26年度)	環境残留性・生物蓄積性の懸念される環状シロキサンについて、環境試料の分析法検討、下水処理施設等の発生源調査、周辺河川の濃度分布調査を行うことで環境動態に関する知見を集約し、環状シロキサンの環境影響評価に貢献する。	堀井勇一 茂木守 大塚宜寿 蓑毛康太郎 野尻喜好	124頁
水環境における大型二枚貝の多元的活用に関する基礎的研究 —二枚貝の安定供給化の検討— (平成22～24年度)	大型二枚貝であるドブガイ(イシガイ科)は、水質及び生態系の長期的安定化や供試動物(バイオアッセイ、指標生物)として、環境分野で多元的活用が期待できる。稚貝の安定確保に必要な個体成長環境(餌条件)を検討する。	田中仁志 木持謙	125頁
県内河川における内部生産現象の実態解明と水質汚濁影響評価 (平成24～26年度)	県内で河川形態や水質が異なる上流域及び中流停滞性水域を対象に、内部生産の実態を把握するとともに、生産を支配する因子を明らかにして有機汚濁の観点から環境影響を評価する。	高橋基之 池田和弘 柿本貴志 見島伊織 渡邊圭司	126頁
下水処理プロセスにおけるN ₂ O生成ポテンシャルの評価 (平成24～26年度)	県内の下水処理施設を対象とし、N ₂ O生成に関連する代謝速度を実験的に測定することにより、下水処理プロセスからのN ₂ O生成のポテンシャルを評価し、温室効果ガス排出抑制条件を明らかにすることを目的とする。	見島伊織	127頁
微動探査法における深度方向指向性に関する研究 (平成23～24年度)	微動探査法で使われる地震計アレイは、形状に応じて深度方向に指向性を持つと考えられているが、それを表現する理論は未だ存在しない。本研究では深度方向指向性を表現する理論を導き、その性質を明らかにする。	白石英孝	128頁
埼玉県における地下水質特性の総合評価とその応用に関する研究 (平成23～26年度)	本研究は埼玉県平野部における地下水質特性を評価・解析することにより、環境管理上懸案となっている様々な地下水汚染に対して効率的な監視体制や迅速かつ適切な汚染状況の把握手法の提案を目指す。	八戸昭一 石山高 濱元栄起 白石英孝	129頁
海成堆積物の風化メカニズムと土壌汚染リスク管理に向けた検討 (平成24～26年度)	海成堆積物は一定期間大気中で放置されると、硫化鉱物の風化により酸性土壌へと変化し、様々な有害重金属類が溶出する。本研究では、硫化鉱物の風化過程と土壌pHの変化について解析し、この結果を基に海成堆積物の土壌汚染リスク管理手法を検討する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	130頁
土壌中における有害重金属の存在形態と植物への移行状況の解析 (平成24～26年度)	土壌汚染が発生した場合、土壌を介して有害物質が植物へと移行する可能性が懸念される。植物への移行特性を解析するには、間隙水中での溶出形態や土壌中での存在形態の把握が不可欠である。本研究では、中国農用地汚染土壌を用いて、重金属類の溶出形態と存在形態を分析する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	131頁
地中熱利用システムのための地下熱環境評価手法と熱応答試験装置の開発 (平成24～26年度)	本研究は、再生可能エネルギーのひとつとして期待されている地中熱エネルギーに着目し、設計や施工に役立つ情報の整備を行うことを目的としている。特に、熱の採りやすさを事前に把握できる「熱応答試験」について研究し、数値実験や現場での実験を通じて、埼玉県の地下環境に適した試験方法等の検討を行う。	濱元栄起 八戸昭一 白石英孝 石山高 佐竹健太	132頁

5. 2. 2 外部資金による研究事業

(35課題)

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:法政大学 その他連携先:東京都環境科学研究所、長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-2(1)④-2)―埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究―」 地域における温暖化対策を推進するためには地域の脆弱性を考慮した戦略が必要となる。しかし、現在、温暖化影響すら十分把握されていない。そこで、特に温暖化適応策を推進するため、地域性が高い農作物に注目し、温暖化による地域農作物への影響評価を検討する。また、埼玉県における温暖化影響の実態把握のための情報収集等を行う。	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 三輪誠	133頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:(独)農業環境技術研究所 その他連携先:(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-1(6)③)―不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価―」 日本全国を対象として、米および米以外の作物への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を予測の不確実性を考慮に入れて広域的に評価する。当センターは主として予測の不確実性を考慮に入れた影響評価および不確実性低減手法の開発を行う。	増富祐司 三輪誠 米倉哲志	134頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～24年度) 研究代表:(一財)電力中央研究所 その他連携先:群馬県衛生環境研究所、高崎経済大学、埼玉大学	「わが国都市部のPM _{2.5} に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価―二次生成成分の時間・空間分布の把握と二次粒子生成サブモデルの検証―」 二次粒子成分を中心に大気質モデルのPM _{2.5} 濃度再現性を向上し、大気質モデルをわが国のPM _{2.5} 対策検討に「使える」ツールとして確立する。そのため、首都圏において多地点同時観測を実施し、時間的・空間的に密な二次生成成分濃度データを取得し、ガス・粒子分配比の地域差や輸送途上での変質過程を明らかにする。	長谷川就一 米持真一	134頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～24年度) 研究代表:(公財)産業廃棄物処理事業振興財団 その他連携先:九州大学、京都大学、NPO法人最終処分技術システム研究協会、同済大学、前田建設工業(株)	「不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価」 本研究は、産業廃棄物の不法投棄等の不適正処分のうち、堆積廃棄物の斜面崩壊の危険がある現場を対象として、崩壊の危険性(斜面安定性)についての評価方法を研究、開発する。	川寄幹生	138頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:(独)国立環境研究所、日本工業大学、長崎大学	「アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究」 本研究は、再生砕石の製造ルートへのアスベスト含有建材混入の実態を把握し、防止する方法を提示することにより、リサイクルの推進と安全性の両立を図ることを目的とする。	渡辺洋一 (代表) 川寄幹生 磯部友護 鈴木和将	138頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究」 本研究では、一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理を破砕選別処理後の不燃残さの質から考察し、現在埋立処分されている不燃残さの減量化及び資源化を図るためには何が必要なのか検討を行う。	川寄幹生 (代表) 渡辺洋一 磯部友護 鈴木和将	139頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:北海道大学 その他連携先:日本工業大学、 (独)国立環境研究所、長崎大学、 東急建設(株)	「中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発」 近年の我が国の埋立地では、中間処理残さが大半を占めている。本研究では、中間処理残さの安定化過程に関し、現場調査から安定化の実態と課題を把握し、埋立物の物理・科学特性を改善するための混合理立手法や、機能性覆土の導入効果を実験から検証し、次世代型の埋立処分技術を確立する。	磯部友護 鈴木和将 川寄幹生	139頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:(独)国立環境研究所 その他連携先:福岡大学、京都大学、 埼玉大学、日本工業大学、神 奈川県環境科学センター、千葉県 環境研究センター	「最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究」 構造の古い処分場や管理が不十分な処分場は、廃止までの期間が長期化するなど不健全な負の遺産の予備軍である。本研究では、物理探査等の検査技術、構造安定性等の数値解析などにより、処分場の健全性をスクリーニングする一連の検査手法の開発を行う。	磯部友護	140頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:(公財)日本産業廃棄物 処理振興センター その他連携先:北海道大学、日本 工業大学、桜美林大学、環境資源 システム総合研究所、富山県立大 学	「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」 産業廃棄物の3R推進と適正処理を実現し、持続可能な社会を構築するために必要不可欠な産業廃棄物の質・量の流れを正確に把握するため、既存のマニフェストシステムの運用実態とその情報の活用実態の分析、実際の処理現場での情報の信頼性の検証を行い、活用可能性を明らかにする。あわせて、国内外のマニフェストシステムの活用事例を解析する。分担研究として、産業廃棄物の分析を行い、マニフェストに付加する情報としての質データの活用可能性を検討する。	渡辺洋一	140頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:(独)国立環境研究所 その他連携先:名古屋大学	「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化/多段触媒変換プロセスの開発」 廃棄物系バイオマスをガス化後触媒改質し、生成するH ₂ 、CO、CO ₂ 等含有ガスに対し異なる温度範囲でさらに触媒を用いて質変換し、付加価値のあるCH ₄ およびCOを高効率に回収するガス化/多段触媒変換プロセスを開発する。さらに、これらの開発要素技術を実際の地域に適用するシミュレーションを通じて、総合システムの最適な導入条件と成果を提示する。	鈴木和将	141頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際セ ンター	「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」 本研究では、低分子シロキサンの中でも国際的に優先してリスク評価が取り組まれている環状及び鎖状の4～6量体を中心に、まず、公定法への提案を目指した高精度分析法開発を行う。次にこの確立した分析法をもとに発生源データの整備、環境中への排出状況把握、環境動態解析を行う。	堀井勇一 (代表) 養毛康太郎	143頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:静岡県立大学 その他連携先:大塚製薬(株)	「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」 ダイオキシン類と同様に燃焼に伴い非意図的に発生し、ダイオキシン類と同等以上の環境リスクが指摘されている塩素化または臭素化した多環芳香族炭化水素類について、既存の廃棄物焼却施設を想定した生成機構及び生成速度の解析を行い、さらに実施設からの排出実態等を基にしたリスクベース管理手法を提案する。	堀井勇一	143頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～24年度) 研究代表:福島大学 その他連携先:(独)国立環境研究所、(公社)福島県浄化槽協会、フジクリーン工業(株)、(公財)日本環境整備教育センター	「高度省エネ低炭素社会型浄化槽の新技术・管理システム開発」 CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O排出抑制可能な低炭素社会対応省エネルギー型浄化槽の技術・管理システム開発を行う。太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用を想定し、従来方式の常時ばっ気運転に対して、夜間等のばっ気停止、間欠ばっ気のそれぞれについて、特に重要な温室効果ガス(GHG _s)であるCH ₄ 、N ₂ O発生特性の解析評価を行うとともに、良好な処理水質とGHG _s 発生抑制の両立可能な運転操作・維持管理条件を構築する。	木持謙	145頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター その他連携先:龍谷大学、東レテクノ(株)	「湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価」サブテーマ3「浅い富栄養化池沼の好気、嫌気条件におけるシードバンクのポテンシャルの把握」 湖沼沿岸帯は水質形成に大きく寄与する植物プランクトンの貯蔵庫(シードバンク)として機能していると考えられる。一方、湖沼において底層の貧酸素化が問題となっている。本研究は山ノ神沼の底質を用いて、好気、嫌気条件がシードバンク機能に及ぼす影響を評価する。	田中仁志	146頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解明」 自ら開発した、磁氣的性質を利用して粒子状物質中に含まれる金属元素成分の分離法を応用し、PM ₁ 中に含まれる金属元素成分の化合形態の解明を試みる。また中国国内においても試料採取を行い、本手法を適用することで、越境汚染の新たな評価手法を開発する。	米持真一 (代表) 梅沢夏実 王効挙	135頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成22～24年度) 研究代表:埼玉大学 その他連携先:東京大学生産技術研究所、東京大学工学系研究科、(一財)電力中央研究所	「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」 大規模ヒートアイランドとその影響による気象災害や大気汚染に関して、①関東平野規模の空間スケールにおける既存データ解析、②都市内と都市圏外にわたるマイクロ・マクロの観測、③都市熱環境モデルと地域気象・大気汚染モデルの融合による機能の向上を目的とした共同研究で、主に、①のテーマにおいて埼玉県内を対象とし気温状況を把握するために広域的な気温の実測調査などを実施する。	米倉哲志 嶋田知英	136頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成22～24年度) 研究代表: 埼玉大学	「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく光化学オキシダントの作物影響評価法」 秒オーダーの極短時間における植物の葉などの生長挙動を、サブナノメータの分解能で連続的に計測できる光干渉法に基づいたシステムを用いて、植物の環境に対する形態的応答を知ることにより、新しい植物の環境ストレスモニタリング技術を確立する。さらに、環境ストレス応答を評価するとともに、早期に生育や収量への影響を予測する手法を検討する。	米倉哲志 三輪誠	136頁
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～25年度) 研究代表: 埼玉大学	「機能的光断層画像法による植物の無侵襲環境ストレスモニタ法の開発」 Optical Coherence Tomographyと呼ばれる光断層画像法及びバイオスペックルと呼ばれる生体内部の物質の輸送や微細構造の変化を反映している動的な光散乱現象に基づいて、生理学的反応を3次元的に高感度に観測可能なシステムを構築する。さらに、環境条件に敏感に反応する植物体の部位の特定をおこなうとともに、オゾンなどの環境ストレス下の植物に対して、実験により本手法の有効性を検証し、環境汚染影響評価手法としての可能性を検討する。	米倉哲志	137頁
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター 連携先: 山西農業大学、上海大学、吉林省農業環境資源研究センター	「中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技術の確立」 広範囲な汚染土壌を再生可能な資源としての有効利用及び効率的修復手法の確立は緊急かつ重要な課題となっている。本研究では、深刻な問題となっている中国の農用地汚染土壌を対象として、バイオ燃料用植物の有効利用と効率的浄化を同時に実現できる収益型植物修復技術の確立を行う。	王効挙 (代表) 米持真一 磯部友護 細野繁雄	137頁
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成22～24年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター	「建設廃棄物破碎残さからのアスベスト濃縮手法の構築」 石綿含有成形板が他の建設系廃棄物とともに破碎された場合、希釈される等の要因から、現在のJIS法で検出することは困難を伴う。そこで、本研究は建設廃棄物破碎残さに着目し、残さ中の石綿繊維を風力及び比重差を利用して濃縮する手法を検討する。	川寄幹生 (代表)	141頁
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成22～24年度) 研究代表: 埼玉県環境科学国際センター	「粘土資源利用に伴うダイオキシン類の環境動態と天然生成メカニズム解明に関する研究」 ダイオキシン類の自然発生源である「カオリン粘土」に着目し、産業活動に伴う粘土資源の収支と含有するダイオキシン類の挙動解明及び環境負荷量の推定を試みる。さらに地質学、地球化学的手法を用いて、カオリン粘土中ダイオキシン類の起源及び生成メカニズムの解明を試みる。	堀井勇一 (代表)	144頁
(独) 日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表: 名城大学 その他連携先: 静岡県立大学	「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」 本研究では、高塩素・臭素化PAHsの合成を始め、それらの環境汚染分布、発生源、環境動態、そして生体毒性評価の各研究を柱にし、得られた個々の結果からハロゲン化PAHsにおける総合的な環境影響評価を目指す。	堀井勇一	144頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「PFOS、PFOA及びそれらの前駆物質の起源と水環境動態の解明」 生物に対する有害性が指摘されている難分解性物質であるペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)による河川水の汚染原因を解明するとともに、それらの前駆物質による環境汚染実態とその汚染機構を解明する。	茂木守 (代表) 野尻喜好 堀井勇一	145頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～26年度) 研究代表:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター その他連携先:神戸大学、滋賀県立大学、兵庫県立大学	「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」 湖沼において環境基準達成を困難にしている一因として蓄積性難分解性溶存有機物の増加が疑われている。本研究では、それら溶存有機物が増加した場合に起こる将来的な生態系への影響を把握するために、藻類に対する影響評価手法を開発する。	田中仁志	146頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～24年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「湖沼における浮遊細菌を介した溶存有機物の動態解明に向けた新たな展開」 本研究では、浮遊細菌を介した溶存有機物の流れおよび収支を純粋分離株を用いた室内実験系により解明し、併せて実際の現場における浮遊細菌の現存量を明らかにすることで、湖内炭素循環における浮遊細菌の寄与を見積る。	渡邊圭司 (代表)	147頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成22～24年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:埼玉大学	「有機質土を利用した海成層中重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術の開発」 近年、日本各地で海成層由来の土壌汚染が顕在化し始めている。本研究では、有機質土を利用した海成層中有害重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術を開発する。	石山高 (代表) 八戸昭一	149頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:東北大学	「アレイの指向性制御によるFocused微動探査法の開発」 本研究は地震計アレイの深度方向指向性を制御し、計測対象にフォーカシングした地下情報の収集を可能とする新たな計測法の導出を目的とし、地震計アレイの深度方向指向性に関する理論及びその制御方法等について検討を行う。	白石英孝 (代表)	149頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」 温暖化によって気温の上昇だけではなく地下の温度も上昇傾向にあることが分かってきた。本研究は、関東平野において地下水観測井を活用し地下温度計測を実施することで、関東平野における地下の温暖化の程度を明らかにすることを目的とする。	濱元栄起 (代表)	150頁
(独)科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST) (平成21～26年度) 研究代表:高知大学 その他連携先:北海道大学、(独)国立環境研究所、岡山大学、京都大学、鳥取大学、愛媛大学	「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」サブテーマ4「面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価」 全体研究は以下の研究からなる。(1)資源創出とN ₂ O排出抑制を同時に実現する面的植物浄化・水再生システムの構築、(2)農業地域に適した分散型水・資源再生システムの開発、(3)農業地域における水・バイオマス資源のカスケード型循環利用システムの構築、(4)面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価。本機関は、他機関と協力し、本全体研究で開発する(1)～(3)の諸技術から構成する全システムの環境負荷、経済等の全体評価を分担研究する。	長谷隆仁	142頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度)</p> <p>研究代表: 愛媛大学</p> <p>その他連携先: (独) 産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(独) 国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社) 海外環境協力センター、(株) 数理計画、メキシコ・国立環境研究研修センター他</p>	<p>「オゾン、VOCs、PM_{2.5}生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」</p> <p>メキシコにおける大気中のオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナリオを提言する。そのため、オゾンやPM_{2.5}の環境動態を日本とメキシコを中心に解明し、二国間に共通する側面や地域独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾン、VOC、PM_{2.5}の生成メカニズムを明らかにする。</p>	長谷川就一	135頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度)</p> <p>研究代表: 埼玉大学</p> <p>その他連携先: 早稲田大学、(独) 産業技術総合研究所、ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、全国廃棄物管理支援センター、中央環境省</p>	<p>「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」</p> <p>持続可能な低コスト・低メンテナンス・低環境負荷の環境汚染防止技術や廃棄物処分場修復技術の開発・導入により、スリランカ国の廃棄物問題解決への貢献を目指す。</p>	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護	142頁
<p>(一財) 日本自動車研究所委託研究費(平成24年度)</p> <p>研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「バイオマス焼却時に発生するサブミクロン粒子の特性解明」</p> <p>近年では、PM_{2.5}に含まれる自動車由来の炭素粒子濃度は減少している一方で、二次生成由来の有機粒子についての改善傾向は顕著ではない。さらにバイオマス焼却由来の炭素粒子の寄与の増加が懸念されている。本課題では、周囲を田園に囲まれた環境科学国際センターをフィールドとし、バイオマス焼却由来粒子の組成の特性を明らかにする。</p>	坂本和彦 (代表) 米持真一	133頁
<p>公益信託 下水道振興基金研究助成(平成23～24年度)</p> <p>研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p> <p>連携先: 茨城大学、日本大学</p>	<p>「雨天時汚濁負荷の変動に伴うN₂O発生モデル化と多面的環境負荷削減効果の検討」</p> <p>雨天時の汚濁負荷変動に伴うN₂O発生の変動をモデル化することで、温室効果ポテンシャルや富栄養化ポテンシャルの変化を解析し、雨天時下水処理システムの最適化の検討を行う。</p>	見島伊織 (代表)	147頁
<p>公益財団法人 鉄鋼環境基金研究助成(平成24～25年度)</p> <p>研究代表: 埼玉県環境科学国際センター</p> <p>連携先: 茨城大学、日本大学</p>	<p>「生物学的窒素除去におけるN₂O発生モデル化および制御」</p> <p>生物学的窒素除去において、N₂O発生に与える影響因子を明らかにし、N₂O発生の動力学モデルの構築を行う。N₂O発生量の時間的ならびに空間的変動特性を解析することで、不確実性を考慮したN₂O発生を抑制する手法の検討を行う。</p>	見島伊織 (代表)	148頁
<p>科学技術振興機構復興促進プログラム(A-STEP) (平成24～25年度)</p> <p>プロジェクトリーダー: (株) 環境測定サービス</p> <p>その他連携先: 茨城大学、茨城県工業技術センター</p>	<p>「水質解析による水道管内面劣化診断手法の開発」</p> <p>水道管ネットワークから採取した水試料を用いて、水中固形物の粒度分布と化学組成などの関係について統計解析などから検討し、水道管内面の劣化診断手法を構築することを目的とする。特に、Feなどの酸化形態の指標の可能性について研究する。</p>	見島伊織	148頁

5.2.3 行政令達

(40件)

事業名	目的	担当	関係課	概要
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業	県内温室効果ガスの排出量、CO ₂ 濃度、県内各地の温度データ等を調査・統合し、県内における温暖化の状況や温暖化対策の効果等について横断的な分析を行う。	温暖化対策担当 自然環境担当	温暖化対策課	152頁
地理環境情報システム整備事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。	温暖化対策担当	温暖化対策課	152頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業（地球環境モニタリング調査）	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担当 自然環境担当	大気環境課	153頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業（有害大気汚染物質調査）	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	大気環境課	153頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業（酸性雨調査）	大気降下物による汚染の実態とその影響を把握し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	154頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業（炭化水素類組成調査）	近年増加傾向である光化学オキシダントの発生源要因を精査するために、原因物質である炭化水素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握する。	大気環境担当	大気環境課	154頁
大気汚染常時監視運営管理事業	埼玉県内のPM _{2.5} による汚染実態を把握するとともに、その成分も分析することで、PM _{2.5} の濃度低減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課	155頁
NO _x ・PM総量削減調査事業	PM _{2.5} の二次粒子の生成において寄与割合の大きい前駆物質を特定し、生成抑制対策の基礎データを得ることを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	155頁
工場・事業場大気規制事業	工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における窒素酸化物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課	156頁
大気環境石綿（アスベスト）対策事業	石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するための調査を行う。	大気環境担当	大気環境課	156頁
揮発性有機化合物対策事業	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課	157頁
騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	157頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 化学物質担当 水環境担当	大気環境課(環境省委託)	158頁
大気汚染常時監視運営管理事業(光化学オキシダント植物影響調査)	県内における光化学オキシダント(主としてオゾン)による植物被害の発生状況を把握するため、オゾンの指標植物であるアサガオを用いて、その被害の県内分布等を調査する。	自然環境担当	大気環境課	158頁
希少野生生物保護事業	県の魚ムサシトミヨが自然状態で安定的に生息できるように、元荒川の水源を維持するとともに、種の保存、危険分散に係わる試験研究を実施し、ムサシトミヨ生息地における遺伝的多様性評価に係わる試験研究を行う。「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)、イモリ(両生類)について、保護管理事業の目標や、事業が行われるべき区域、事業内容等を定めた保護管理計画を策定するための生息状況調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ等について、個体の維持・増殖及び危険分散を行う。	自然環境担当 温暖化対策担当	自然環境課	159頁
野生生物保護事業	野生生物保護に資するため、野生生物に関する各種情報をGISデータベースとして整備する。また、奥秩父雁坂付近原生林の気象観測を行うとともに、シカ食害状況を経年的に調査、把握する。	自然環境担当 温暖化対策担当	自然環境課	159頁
水辺再生100プラン事業(小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡに係る魚類調査)	小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡにおいて、河川生態系の現況を確認するため、魚類等の採捕調査により生息状況を把握する。	自然環境担当	水辺再生課	160頁
農林総合研究センター試験研究事業(光化学オキシダントによる軟弱野菜の被害軽減技術の確立)	本県の主要農作物であるハウレンソウやコマツナを中心とした軟弱野菜の光化学オキシダント被害軽減技術について検討する。	自然環境担当	生産振興課	160頁
産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	161頁
廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要の調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	161頁
廃棄物不法投棄特別監視対策事業	不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を軽減・除去する。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	162頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設(最終処分場及び焼却施設)の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	162頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖)	埼玉県環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	163頁
循環型社会づくり推進事業	一般廃棄物不燃ごみ及び粗大ごみの適正処理について検討する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	163頁
新河岸川産業廃棄物処理対策事業	有機溶剤を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援する。	資源循環・廃棄物担当	河川砂防課	164頁
ダイオキシン類大気関係対策事業	ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基く立入検査等に伴って採取した排ガス、ばいじん等の検査を実施する。	化学物質担当	大気環境課	164頁
工場・事業場水質規制事業(ダイオキシン類)	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質担当	水環境課	165頁
土壌・地下水汚染対策事業(土壌のダイオキシン類調査)	大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。	化学物質担当	水環境課	165頁
水質監視事業(ダイオキシン類汚染対策調査)	環境基準を超過するものの、汚染源が不明となっている河川について、研究的な視点による調査、解析・考察を行う。	化学物質担当	水環境課	166頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業(ダイオキシン類調査(大気))	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター、資源循環工場及び周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質担当	資源循環推進課	166頁
化学物質総合対策推進事業(工業団地等周辺環境調査)	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質のうち、大気への排出量の多い化学物質を中心に、事業場周辺における大気環境濃度の実態を把握する。	化学物質担当	大気環境課	167頁
野生動物レスキュー事業	野鳥の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。	化学物質担当	自然環境課	167頁
水質監視事業(公共用水域)	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	168頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止を図る。	水環境担当	水環境課	168頁
水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当	水環境課	169頁
共助による川の再生事業	五感による河川環境指標の導入や川の国応援団サポートデスク運営事業、川の国アドバイザー活動事業などにより、川の国応援団を中心とした民と民との連携強化を図り、共助による川の再生を推進する。	水環境担当	水環境課	169頁
水質監視事業（地下水常時監視）	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水・地盤担当 水環境担当	水環境課	170頁
土壌・地下水汚染対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。	土壌・地下水・地盤担当	水環境課	170頁
放射線測定体制強化事業	福島第一原子力発電所事故による放射線の影響について、いまだに多くの県民が不安を抱いていることから、一般環境における放射線の監視・測定体制を整備し、県民の安全・安心を確保する。	土壌・地下水・地盤担当 大気環境担当	環境政策課	171頁
水ビジネス海外展開チャレンジ事業	水環境に対する国際貢献の実現及び県内環境ビジネスの振興を図るため、官民が連携した水ビジネスの海外展開に向けた取組を実現する。	研究企画室 水環境担当	環境政策課	171頁

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

平成24年度は、国内外で45課題を実施した。

(1) 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

共同研究・研究協力一覧

(40課題)

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(一財)日本自動車研究所	「バイオマス焼却時に発生するサブミクロン粒子の特性解明」(再掲) PM2.5の濃度低減を図るには、近年の道路沿道における微小粒子とともに、田園地帯で収穫期以降に見られる野焼き(バイオマス焼却)由来の微小粒子についても、その組成を明らかにする必要がある。本課題では、PM2.5採取用サンプラーであるMCI、MiniVolを1 μ m以下の微小粒子(PM1)仕様に変更し、各発生源直近で試料を採取して、その組成を明らかにする。	坂本和彦 米持真一
法政大学、 東京都環境科学研究所、 長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究)」(再掲) 大学、研究機関と関東・中部地域の研究所が協力しながら地域社会の諸側面に及ぼす温暖化影響を総合的に分析することにより、地域スケールの定量的な影響評価及び脆弱性評価に係る手法を確立する。また、地域社会に即した体系的な適応方策のあり方を探求し、地方自治体で適用可能な適応戦略・政策ガイドラインを作成する。	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 三輪誠
(独)農業環境技術研究所、 (独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価)」(再掲) 米及び米以外の作物(麦、大豆、果樹)への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を、予測の不確実性モデルを考慮に入れて広域的に評価するため、対象とする作物ごとに広域スケールに適用できる影響予測モデルや評価手法を開発する。また、モデルを使用し、複数の将来気候の予測値を外力として、予測の不確実性を考慮に入れた評価を実施する。	増富祐司 三輪誠 米倉哲志
早稲田大学理工学術院	「大気中粒子物質PM1の都心と郊外との比較と特性解明」 PM2.5の多くはPM1として存在すると考えられ、一方で、粗大粒子の影響をほとんど受けないと考えられる。本研究は、これまで早稲田大学敷地内で実施してきた粒子状物質捕集と性状の比較を、更に発展させ、郊外と都心とのPM1の詳細な比較を行う。	米持真一
早稲田大学理工学術院	「工場内で利用可能なVOC局所対策手法の開発に関する研究」 中小企業における自主的な取組によるVOC排出抑制を支援するため、特に使用済みウエス入れを対象として、VOC排出を抑えるため、VOCの動態を定量化するとともに、容器外への漏洩を極力抑制するための、新しいウエス入れの開発を試みる。	米持真一
さいたま市健康科学研究センター	「微小粒子状物質による大気汚染状況の研究」 環境基準の設定された大気中微小粒子状物質(PM2.5)について、質量濃度及び化学組成を調査することで、今後の削減対策に向けた知見の集積を図る。	米持真一 長谷川就一

連携先	研究課題名及び概要	担当者
吉野電化工業(株)	<p>「局所発生源を対象としたVOC処理システムの開発」</p> <p>光触媒の長所を生かした中小企業向けのVOC処理装置を開発するため、独自に開発した立体格子構造を持つ担体に光触媒を担持させる手法および処理装置試作器の作製について検討を行う。</p>	米持真一
(独)国立環境研究所、 大阪市立環境科学研究所 他	<p>「PM2.5と光化学オキシダントの実態解明と発生源寄与評価に関する研究」(Ⅱ型共同研究)</p> <p>全国の地環研および国環研が、5つのグループに分かれて研究を進める。埼玉県は主として「観測グループ」に所属し、発生源寄与評価のためのPM2.5質量濃度および成分濃度の観測、VOC成分の観測を行うための基礎的事項の整理や観測手法などについて検討を行う。</p>	長谷川就一 米持真一
(独)国立環境研究所	<p>「関東における粒子状物質削減のための動態解明」(Ⅰ型共同研究)</p> <p>関東域における粒子状物質の大気動態の解明を目的として、大気観測を行い、PMの動態、特にSOAの移流や反応についての観測データを収集し、シミュレーションなどを介して、関東域におけるPMの空間分布を把握する。</p>	長谷川就一
(一財)電力中央研究所、 群馬県衛生環境研究所、 高崎経済大学、埼玉大学	<p>「わが国都市部のPM2.5に対する大気質モデルの妥当性と予測誤差の評価－二次生成成分の時間・空間分布の把握と二次粒子生成サブモデルの検証－」(再掲)</p> <p>二次粒子成分を中心に大気質モデルのPM2.5濃度再現性を向上し、大気質モデルをわが国のPM2.5対策検討に「使える」ツールとして確立する。そのため、首都圏において多地点同時観測を実施し、時間的・空間的に密な二次生成成分濃度データを取得し、ガス・粒子分配比の地域差や輸送途上での変質過程を明らかにする。</p>	長谷川就一 米持真一
埼玉大学、 東京大学生産技術研究所、 東京大学工学系研究科、 (一財)電力中央研究所	<p>「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」(再掲)</p> <p>大規模ヒートアイランドとその影響による気象災害や大気汚染に関して、①関東平野規模の空間スケールにおける既存データ解析、②都市内と都市圏外にわたるマイクロ・マクロの観測、③都市熱環境モデルと地域気象・大気汚染モデルの融合による機能の向上を目的とした4機関による共同研究で、①のテーマにおいて埼玉県内を対象とし広域気温調査などを実施する。</p>	米倉哲志 嶋田知英
埼玉大学	<p>「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく光化学オキシダントの作物影響評価法」(再掲)</p> <p>本研究では、秒オーダーの極短時間における植物の葉などの生長挙動を、サブナノメートルの分解能で連続的に計測できる光干渉法に基づいたシステムを用いて、植物の環境に対する形態的応答を知ることにより、新しい植物の環境ストレスモニタリング技術を確立する。また、本技術を作物に適用することにより、その環境ストレス応答を評価するとともに、早期に生育や収量への影響を予測する手法を開発する。具体的な環境汚染物質として、光化学オキシダントの主成分であるオゾンに焦点を絞り、イネなどの作物に対するオゾンストレスを早期にかつ定量的に評価することを目的とした実証研究を行う。</p>	米倉哲志 三輪誠
埼玉大学	<p>「機能的光断層画像法による植物の無侵襲環境ストレスモニタ法の開発」(再掲)</p> <p>近年、環境が生物の生長あるいは内部活性に与える影響を正確に計測する技術の確立が望まれていることから、本研究では、OCT(Optical Coherence Tomography)と呼ばれる光断層画像法及びバイオスペックルと呼ばれる生体内部の物質の輸送や微細構造変化を反映している動的な光散乱現象に基づいて、新規な機能的断層画像観測システムを構築する。</p>	米倉哲志

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独) 国立環境研究所他	<p>「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」(Ⅱ型共同研究)</p> <p>野外における植物のストレス診断及び植物を用いた環境モニタリングを行うための分子的メカニズムに基づく手法の開発・確立を目指す。特に、植物のオゾンストレスや放射線影響を指標植物の遺伝子発現解析等によって診断する手法を確立するとともに、市民の理解を深めるために研究結果の普及を図る。</p>	三輪誠
(独) 国立環境研究所	<p>「震災廃棄物等の適正処理のための現場計測技術の開発」(Ⅰ型共同研究)</p> <p>東日本大震災により発生したがれき類のみならず、海からの水底土砂(津波堆積物)を適正処理することは、被災地の復興を進める上で急務となっている。これらの適正処理を進めるために必要な現場計測技術の開発を行う。</p>	渡辺洋一 長森正尚 川寄幹生 長谷隆仁 磯部友護 鈴木和将
(独) 国立環境研究所、 日本工業大学、長崎大学	<p>「アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究」(再掲)</p> <p>目視によるアスベスト含有建材の選別除去手法と作業現場等の飛散防止対策及び一連の工程における健康リスクを検討することにより、建築物の解体から再生利用に致るまでの安全性を確保するための判定－選別－飛散防止システムを構築し、リサイクルの推進と環境安全性の両立を図る。</p>	渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護 鈴木和将
(公財) 産業廃棄物処理事業 振興財団、九州大学、 京都大学、NPO法人最終処 分技術システム研究協会、 同済大学、前田建設工業 (株)	<p>「不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価」(再掲)</p> <p>堆積廃棄物の斜面安定性については、確立した評価方法が無い状況にあるため、土質力学に基づく地盤の斜面安定性の評価方法(円弧すべり解析等)を援用するなどして類推しているのが現状であるため、廃棄物堆積現場での載荷・崩壊実験等により、堆積廃棄物の崩壊現象を把握し、土質力学的手法の適用性や適用限界について検討する。</p>	川寄幹生
高知大学、 北海道大学大学院、 (独) 国立環境研究所、 岡山大学大学院、 京都大学大学院、 鳥取大学大学院、愛媛大学	<p>「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」(再掲)</p> <p>食料生産の場である農業地域の持続可能な水処理を実現するシステムを構築するため、排出源における集中処理が可能な都市域とは異なり排出源が面的に分散している農業地域において、「面的」な水処理技術を構築する。また、農業地域における適切な循環システムを構築するため、バイオマス資源の質と分布状況に応じた「カスケード型資源循環システム」を構築する。</p>	長谷隆仁
(独) 国立環境研究所、 福岡大学、京都大学、埼玉 大学、日本工業大学、神奈 川県環境科学センター、千 葉県環境研究センター	<p>「最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究」(再掲)</p> <p>共同命令及び基準省令改正以前に設置された旧型の最終処分場の健全性を工学的に示すための項目の列挙、ならびに各項目に関する検査方法の整理と開発を行う。また、構造改善や安定化促進方法に関する提案を行い、費用対効果の評価を行う。</p>	磯部友護
北海道大学、 日本工業大学、 (独) 国立環境研究所、 長崎大学、東急建設(株)	<p>「中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発」(再掲)</p> <p>埋立地に最終処分された中間処理残渣の安定化過程に関し、現場調査から安定化の実態と課題を把握するとともに、埋立実験等により埋立層内での廃棄物の安定化遅延改善方法の検証を行い、機能性覆土の導入による早期安定化方法を検討する。</p>	磯部友護 鈴木和将 川寄幹生
(公財) 日本産業廃棄物処理 振興センター、北海道大学、 日本工業大学、 桜美林大学、 環境資源システム総合研究 所、富山県立大学	<p>「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」(再掲)</p> <p>産業廃棄物の3R推進と適正処理を実現し、持続可能な社会を構築するために必要不可欠な、産業廃棄物の量・質の流れの正確な把握のため、既存のマニフェストシステムの運用実態とその情報の活用実態の分析、実際の処理現場での情報の信頼性の検証を行い、活用可能性を明らかにする。あわせて、国内外のマニフェストシステムの活用事例を解析する。分担研究として、産業廃棄物の分析を行い、マニフェストに付加する情報としての質データの活用可能性を検討する。</p>	渡辺洋一

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所、 名古屋大学	<p>「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化/多段触媒変換プロセスの開発」(再掲)</p> <p>廃棄物及び震災廃棄物として排出されるバイオマスをガス化し、改質するプロセスを中核に、H₂、COとともに多量に発生する二酸化炭素(CO₂)をガス化後段の各温度領域で段階的に効率よく触媒変換し、燃料及び化学合成原料化が可能なCO及びCH₄を回収する実用性の高いガス化/多段触媒変換プロセスを開発する。</p>	鈴木和将
(独)国立環境研究所 兵庫県環境研究センター他	<p>「有機フッ素化合物の環境汚染実態と排出源について」(Ⅱ型共同研究)</p> <p>ストックホルム条約により新たにPOPsに指定されたPFOSをはじめ、PFOA及びそれらの類縁フッ素化合物を対象に、高感度・高精度な分析法や関連情報を共有し、連携して有機フッ素化合物の排出実態や環境動態の解明を行う。</p>	茂木守 野尻喜好
静岡県立大学、 大塚製薬(株)	<p>「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」(再掲)</p> <p>ダイオキシン類と同様に燃焼に伴い非意図的に発生し、ダイオキシン類と同等以上の環境リスクが指摘されている塩素化または臭素化した多環芳香族炭化水素類について、既存の廃棄物焼却施設を想定した生成機構及び生成速度の解析を行い、さらに実施設からの排出実態等を基にしたリスクベース管理手法を提案する。</p>	堀井勇一
名城大学、静岡県立大学	<p>「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」(再掲)</p> <p>高塩素・臭素化PAHsの作製を始め、それらの環境汚染分布、発生源、環境動態、そして生体毒性評価の各研究を柱にし、得られた個々の結果からハロゲン化PAHsにおける総合的な環境影響評価を目指す。</p>	堀井勇一
(株)島津製作所	<p>「環境水のTOC計測手法に関する研究」</p> <p>河川や湖沼等の環境水のTOC計測に関して、試料の前処理及び分析装置の最適化に関して検討し、的確な分析手法を確立する。</p>	高橋基之 池田和弘
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、 龍谷大学、 東レテクノ(株)	<p>「湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価(浅い富栄養化池沼の好気、嫌気条件におけるシードバンクのポテンシャルの把握)」(再掲)</p> <p>池沼等における底質は、植物プランクトンが堆積し、それらのシードバンクとしての重要な生態系維持機能を有している。しかし、富栄養化池沼では、既に底質の有機化に伴う有機物分解が引き起こす貧酸素化が進んでおり、シードバンク機能への影響が現れていると考える。そこで、密閉容器中で酸素(好気、嫌気)条件および暴露時間等をパラメータとした実験を行い、底質から回帰した藻類組成を解析し、底質のシードバンクとしての機能を考察する。</p>	田中仁志
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、 神戸大学、 滋賀県立大学、 兵庫県立大学	<p>「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」(再掲)</p> <p>日本全国の閉鎖性水域で課題となっているCODの増加に関与するとされる難分解性溶存有機物の生物影響を評価するため、湖水からフミン物質を採取し、クラミドモナスを用いた藻類の阻害試験方法を確立する。</p>	田中仁志
福島大学、 (独)国立環境研究所、 (公社)福島県浄化槽協会、 フジクリーン工業(株)、(公財) 日本環境整備教育センター	<p>「高度省エネ低炭素社会型浄化槽の新技術・管理システム開発」(再掲)</p> <p>現状の浄化槽のイニシャル・ランニングコストを最小化すると同時に、従来の化石エネルギー利用を極力減じ、自然エネルギーを最大限に活用する既存電力ハイブリッドを導入した、炭酸ガス、メタン、亜酸化窒素の排出抑制可能な低炭素社会対応省エネルギー型の高度化新技術・管理システム構築のための開発を行う。</p>	木持謙

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
日本大学	<p>「下水処理プロセスにおけるN₂O生成ポテンシャルの評価」</p> <p>窒素成分からN₂Oへの生成ポテンシャルを測定するための条件を検討し、その測定方法を実下水道処理施設に適用することで、県内の下水処理施設におけるN₂Oポテンシャルを評価し、実際のN₂O排出量と比較する。</p>	見島伊織
埼玉県下水道局、 (公財)埼玉県下水道公社	<p>「埼玉県内の流域下水道におけるN₂O発生量の把握と発生抑制方法の基礎的検討」</p> <p>埼玉県内の流域下水道を対象として、水処理プロセスから排出されるN₂Oの発生量を算定し、N₂Oの発生量と他の水質との解析やモデルを使った解析を行い、N₂O発生抑制方法について検討を行う。</p>	見島伊織 柿本貴志
埼玉大学	<p>「有機質土を利用した海成層中重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術の開発」(再掲)</p> <p>近年、日本各地で海成層由来の土壌汚染が顕在化し始めている。本研究では、有機質土を利用した海成層中有害重金属類の低コスト・低負荷型不溶化技術を開発する。</p>	石山高 八戸昭一
東北大学	<p>「アレイの指向性制御によるFocused微動探査法の開発」(再掲)</p> <p>地震計アレイの深度方向指向性を制御し、計測対象にフォーカシングした地下情報の収集を可能とする新たな計測法を導出しようとするものであり、地震計アレイの深度方向指向性に関する理論及びその制御方法等について検討を行う。</p>	白石英孝
東北大学	<p>「表面波伝搬特性に関する基礎的研究」</p> <p>地盤振動に含まれる表面波から、地下構造情報などの有用情報を効率的に抽出する方法を開発するために、伝搬特性に着目した理論的な検討を行う。</p>	白石英孝
東京工業大学	<p>「環境音場の等価音源同定と高精度音圧分布推定法の開発」</p> <p>複雑な特性の騒音源に起因した環境音場について、その騒音源の位置の同定と等価音源モデルの同定を行い、その同定結果と音場モデル(境界要素法に基づくモデル化)を用いて計測不可能な環境音場内の任意の位置の音圧を精度良く推定して音圧分布を求める新しい手法を開発する。</p>	白石英孝
埼玉大学	<p>「逐次化学抽出法を適用した土壌中重金属類の存在形態分析」</p> <p>土壌の種類(沖積土壌、火山灰土壌)や土質(粘土・シルト・砂など)と重金属類の存在形態との関係について検討するとともに、得られた研究成果を汚染メカニズムや汚染源の解析手法として活用する。</p>	石山高 八戸昭一 濱元栄起
東京大学	<p>「地質地盤インフォメーションシステムを利用した県北部地域及び川越比企地域における地質構造の評価に関する研究」</p> <p>県北部地域及び川越比企地域における地質構造を平面的に評価・解析し、自然の地層中に含まれる各種化学元素の賦存量や地下水の水質形成機構を把握する。</p>	八戸昭一
(独)産業技術総合研究所	<p>「地質地盤インフォメーションシステムによる地域環境特性の解析」</p> <p>地質地盤インフォメーションシステムに搭載されたボーリングデータを使用して埼玉県内の地質構造を評価し、当該地域固有の地域環境特性を解析する。</p>	八戸昭一
(独)産業技術総合研究所、 秋田大学	<p>「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」</p> <p>埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。</p>	八戸昭一 濱元栄起

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
東京大学地震研究所	「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期温度モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の推進に役立つ基礎データの取得を行うとともに、地球科学的研究のために深部の地下温度構造等の推定を行う。	白石英孝 八戸昭一 石山高 濱元栄起

(2)国際共同研究

(5課題)

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題 対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度) 研究代表:愛媛大学 その他連携先:(独)産業技術総合研 究所、大阪府立大学、東京大学、(独)国 立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社) 海外環境協力センター、(株)数理計画 相手国連携先:メキシコ・国立環境研究 研修センター	「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言 共同研究プロジェクト」(再掲) メキシコにおける大気中のオゾン、VOCs、PM2.5の生成メ カニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナ リオを提言する。そのため、オゾンやPM2.5の環境動態を日 本とメキシコを中心に解明し、二国間に共通な側面や地域 独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾ ン、VOCs、PM2.5の生成メカニズムを明らかにする。	長谷川就一
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成 事業(平成24～26年度) 相手国連携先:中国・上海大学、中国環 境科学研究院	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解 明」(再掲) 自ら開発した、磁氣的性質を利用して粒子状物質中に含 まれる金属元素成分の分離法を応用し、PM1中に含まれる 金属元素成分の化合形態の解明を試みる。また中国国内に おいても試料採取を行い、本手法を適用することで、越境汚 染の新たな評価手法を開発する。	米持真一 梅沢夏実 王効挙
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成 事業(平成23～25年度) 相手国連携先:中国・山西農業大学、上 海大学、吉林省農業環境資源研究セン ター	「中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技 術の確立」(再掲) 広範囲な汚染土壌を再生可能な資源としての有効利用 及び効率的修復手法の確立は緊急かつ重要な課題となっ ている。本研究では、深刻な問題となっている中国の農用地 土壌汚染土壌を対象として、バイオ燃料用植物の有効利用 と効率的浄化を同時に実現できる収益型植物修復技術の確 立を行う。	王効挙 細野繁雄 米持真一 磯部友護
JICA草の根技術協力事業(地域提案型) (平成23～25年度) 協同実施機関:県資源循環推進課 相手国連携先:中国・山西省生態環境 研究中心、山西農業大学	「山西省環境技術支援事業」 山西省の農業地域におけるごみの減量、資源化の進展、 処分場からの浸出水処理対策を推進し、地域住民の住環境 が改善することを実現するために必要なノウハウ・技術の移 転を行なう。それにより、廃棄物処理における行政事務担 当者や技術者を養成する。	倉田泰人 王効挙 鈴木和将 青木功治 齊藤正浩
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題 対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表:埼玉大学 その他連携先:早稲田大学、(独)産業 技術総合研究所 相手国連携先:スリランカ国・ペラデニヤ 大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究 所、中央環境省、全国廃棄物管理支援 センター	「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染 防止と修復技術の構築」(再掲) 持続可能な低コスト・低メンテナンス・低環境負荷の環境 汚染防止技術や廃棄物処分場修復技術の開発・導入によ り、スリランカ国の廃棄物問題解決への貢献を目指す。	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護

(3)大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

所 属		摘 要
埼玉大学工学部環境共生学科	1名	理工学研究科 河村清史 教授
早稲田大学大学院創造理工学研究科 修士課程	1名	理工学術院 名古屋俊士 教授
早稲田大学創造理工学部	1名	
日本大学大学院理工学研究科 博士前期課程	2名	理工学部 吉田征史 専任講師
日本大学理工学部土木工学科	4名	
東京工業大学大学院理工学研究科 修士課程	3名	理工学研究科 大熊政明 教授
静岡県立大学大学院生活健康科学研究科 博士後期課程	1名	環境科学研究所 三宅祐一 助教
静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府 修士課程	1名	
名城大学大学院農学研究科 修士課程	1名	農学部 大浦健 准教授

(受入15名)

実習生の受入実績

所 属		実 習 期 間
立正大学地球環境科学部環境システム学科	1名	平成24年8月 1日～8月17日
明星大学理工学部環境システム学科	1名	平成24年8月 1日～8月28日
明星大学理工学部総合理工学科 環境・生態学系	2名	平成24年8月 1日～8月28日
早稲田大学創造理工学部環境資源工学科	2名	平成24年8月 7日～8月14日
石川県立大学環境科学科	1名	平成24年8月13日～8月16日
日本工業大学ものづくり環境学科	2名	平成24年8月13日～8月24日

(受入9名)

(4)客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
高橋 潔	(独)国立環境研究所社会環境システム研究センター 主任研究員
大河内 博	早稲田大学創造理工学部 教授
高田 啓介	信州大学理学部生物科学科 准教授
宮脇 健太郎	明星大学理工学部総合理工学科 教授
中野 武	大阪大学大学院工学研究科 特任教授
藤田 昌史	茨城大学工学部都市システム工学科 准教授
山野 誠	東京大学地震研究所 准教授

(5) 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
久保 純子	早稲田大学教育学部 教授
河野 吉久	電力中央研究所 研究アドバイザー
榊原 豊	早稲田大学理工学術院 教授
田中 充	法政大学大学院政策科学研究科・政策科学専攻 教授
畠山 史郎	東京農工大学農学研究院物質循環環境科学部門 教授
原澤 英夫	(独) 国立環境研究所社会環境システム研究センター センター長

5. 4 学会等における研究発表

5. 4. 1 論文

(34報)

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
常圧分級装置Nanosamplerと低圧分級装置LPIにより捕集した粒径別ディーゼル粒子および含有成分の比較	柴田慶子 ¹⁾ 、柳沢伸浩 ¹⁾ 、塩谷健二 ¹⁾ 、坂本和彦	大気環境学会誌、Vol.47、No.6、270-277 (2012)	172頁
Carbonaceous aerosol and its characteristics observed in Tokyo and south Kanto region	H. Minoura ^{2,3)} 、T. Morikawa ⁴⁾ 、A. Mizohata ⁵⁾ 、K. Sakamoto	Atmospheric Environment, Vol.61、605-613 (2012)	172頁
Differences of chemical species and their ratios between fine and ultrafine particles in the roadside environment	S. Kudo ⁶⁾ 、K. Sekiguchi ⁶⁾ 、K.H. Kim ⁷⁾ 、M. Kinoshita ⁶⁾ 、D. Möller ⁸⁾ 、Q. Wang ⁶⁾ 、H. Yoshikado ⁶⁾ 、K. Sakamoto	Atmospheric Environment, Vol.62、172-179 (2012)	172頁
潜在作物生産性モデルGAEZの北海道での適用可能性の検討と改良	田中朱美 ⁹⁾ 、高橋潔 ¹⁰⁾ 、申龍熙 ¹⁰⁾ 、増富祐司、山中康裕 ⁹⁾ 、佐藤友徳 ⁹⁾	土木学会論文集G(環境)、Vol.68、No.5、1_237-1_248 (2012)	173頁
埼玉県における揮発性有機化合物の地域的・時間的濃度変動の特徴と光化学オキシダントとの関係	竹内庸夫、松本利恵、唐牛聖文 ¹¹⁾	大気環境学会誌、Vol.47、No.3、127-134 (2012)	173頁
観測データから見た近年の埼玉県における大気環境の状況と光化学オキシダント濃度推移の要因	竹内庸夫	全国環境研会誌、Vol.37、No.4、178-186 (2012)	173頁
Seasonal differences of the atmospheric particle size distribution in a metropolitan area in Japan	Y. Fujitani ¹⁰⁾ 、P. Kumar ¹²⁾ 、K. Tamura ¹⁰⁾ 、A. Fushimi ¹⁰⁾ 、S. Hasegawa、K. Takahashi ¹³⁾ 、K. Tanabe ¹⁰⁾ 、S. Kobayashi ¹⁰⁾ 、S. Hirano ¹⁰⁾	Science of the Total Environment, Vol.437、339-347 (2012)	174頁
黄砂飛来後の降水時におけるスギ花粉破裂現象とそれに伴うアレルゲンの溶出機構	仲村慎一 ⁶⁾ 、王青躍 ⁶⁾ 、龔秀民 ⁶⁾ 、森田淳 ⁶⁾ 、鈴木美穂 ⁶⁾ 、中島拓也 ⁶⁾ 、中島大介 ¹⁰⁾ 、関口和彦 ⁶⁾ 、呂森林 ¹⁴⁾ 、三輪誠	エアロゾル研究、Vol.27、No.2、182-188 (2012)	174頁
Indirect prediction of surface ozone concentration by plant growth responses in East Asia using mini-open top chambers	Y. Kohno ¹⁵⁾ 、H. Matsumura ¹⁵⁾ 、M. Miwa、T. Yonekura、K. Aihara ¹⁶⁾ 、C. Umponstira ¹⁷⁾ 、V.T. Le ¹⁸⁾ 、N.T. Ngoc ¹⁸⁾ 、P.H. Viet ¹⁸⁾ 、M. Wei ¹⁹⁾	Environmental Monitoring and Assessment, Vol.185, Issue 3、2755-2765 (2013)	174頁
A primary study on assessment of phytoremediation potential of biofuel crops in heavy metal contaminated soil	K. Oh、T. Li ²⁰⁾ 、H.Y. Cheng ²⁰⁾ 、X.F. Hu ¹⁴⁾ 、Q. Lin ²¹⁾ 、Y.H. Xie ²⁰⁾	Applied Mechanics and Materials, Vols.295-298、1135-1138 (2013)	175頁
Decrease of herbicide bromobutide and its debromo metabolite in paddy field soil during 24 weeks after application	M. Morohashi ²²⁾ 、S. Nagasawa ²²⁾ 、N. Enya ²²⁾ 、M. Ohno ²²⁾ 、K. Suzuki、T. Kose ²²⁾ 、K. Kawata ²²⁾	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.89, No.1、176-180 (2012)	175頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Regional air pollution caused by dioxins from numerous emission sources: Lessons from a domestic experience in Japan	K. Suzuki, K. Kawamoto ¹⁰⁾	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.89, No.2, 368-375 (2012)	175頁
Chemical speciation of metals in surface sediments from small urban and agricultural rivers	Y. Igari ²²⁾ , M. Ohno ²²⁾ , T. Tamura ²²⁾ , K. Suzuki, T. Kose ²²⁾ , K. Kawata ²²⁾	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.89, No.4, 764-769 (2012)	176頁
Distribution of metals in surface sediments from a small river flowing through urban and agricultural areas	Y. Igari ²²⁾ , T. Tamura ²²⁾ , M. Ohno ²²⁾ , K. Suzuki, T. Kose ²²⁾ , K. Kawata ²²⁾	Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, Vol.89, No.4, 770-774 (2012)	176頁
クラスター分析による生ごみ処理機処理物を中心とする各種コンポストの特性把握	長谷隆仁、河村清史 ⁶⁾	環境科学会誌、Vol.25、No.6、411-421 (2012)	176頁
低炭素・循環型社会に対応した廃棄物焼却施設のベンチマーキング研究	鈴木和将、大島誠 ²³⁾ 、 川本克也 ¹⁰⁾	廃棄物資源循環学会論文誌、Vol.23、 No.4、157-171 (2012)	177頁
主成分分析によるコンポスト腐熟度指標の統合化	長谷隆仁、河村清史 ⁶⁾	廃棄物資源循環学会論文誌、Vol.23、 No.4、181-191 (2012)	177頁
家畜排泄物堆肥化における副資材調達 の需給構造とその最適化についてのモデル解析	長谷隆仁、渡辺洋一、 河村清史 ⁶⁾	環境情報科学学術研究論文集、 Vol.26、195-200 (2012)	177頁
Evaluating compost maturity with a newly proposed index based on a germination test using Komatsuna (<i>Brassica rapa</i> var. <i>peruviridis</i>) seeds	T. Hase, K. Kawamura ⁶⁾	Journal of Material Cycles and Waste Management, Vol.14, Issue 3, 220-227 (2012)	178頁
Germination test on Komatsuna (<i>Brassica rapa</i> var. <i>peruviridis</i>) seed using water extract from compost for evaluating compost maturity: evaluating criteria for germination and effects of cultivars on germination rate	T. Hase, K. Kawamura ⁶⁾	Journal of Material Cycles and Waste Management, Vol.14, Issue 4, 334-340 (2012)	178頁
Spatial distribution and loading amounts of particle sorbed and dissolved perfluorinated compounds in the basin of Tokyo Bay	Y. Zushi ^{10,24)} , F. Ye ²⁴⁾ , M. Motegi, K. Nojiri, S. Hosono, T. Suzuki ²⁵⁾ , Y. Kosugi ²⁵⁾ , K. Yaguchi ²⁵⁾ , S. Masunaga ²⁴⁾	Chemosphere, Vol.88, Issue 11, 1353-1357 (2012)	178頁
環境大気中ダイオキシン類モニタリングにおける年平均TEQの正確さ	大塚宜寿、蓑毛康太郎、 野尻喜好	環境化学、Vol.22、No.2、59-63 (2012)	179頁
学校等に設置されている小型焼却炉内の残留灰中ダイオキシン類の濃度	蓑毛康太郎、大塚宜寿、 野尻喜好、茂木守、堀井勇一	環境化学、Vol.22、No.4、193-195 (2012)	179頁
有害化学物質の環境分析法の標準化 ー最先端の分析技術を用いた国際的 化学物質管理への貢献ー	谷保佐知 ²⁶⁾ 、羽成修康 ²⁶⁾ 、 堀井勇一、山下信義 ²⁶⁾	シンセシオロジー、Vol.5、No.4、 261-276 (2012)	179頁
Transport of perfluoroalkyl substances (PFAS) from an arctic glacier to downstream locations: Implications for sources	K.Y. Kwok ²⁷⁾ , E. Yamazaki ²⁶⁾ , N. Yamashita ²⁶⁾ , S. Taniyasu ²⁶⁾ , M.B. Murphy ²⁷⁾ , Y. Horii, G. Petrick ²⁸⁾ , R. Kallerborn ²⁹⁾ , K. Kannan ³⁰⁾ , K. Murano ³¹⁾ , P.K.S. Lam ²⁷⁾	Science of the Total Environment, Vol.447, 46-55 (2013)	180頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons in urban surface dust and soil of Shanghai, China	J. Ma ¹⁴⁾ , J. Zheng ¹⁴⁾ , Z. Chen ¹⁴⁾ , M. Wu ¹⁴⁾ , Y. Horii, T. Ohura ³²⁾ , K. Kannan ³⁰⁾	Advanced Materials Research, Vols.610-613, 2989-2994 (2013)	180頁
古綾瀬川における底質中ダイオキシン類の濃度分布と汚染の特徴	細野繁雄、大塚宜寿、蓑毛康太郎、王効拳、杉崎三男、河村清史 ⁶⁾	環境化学、Vol.22、No.3、89-96 (2012)	180頁
降雨による都市水路中のダイオキシン類濃度と組成の変化－古綾瀬川汚染実態調査－	細野繁雄、大塚宜寿、蓑毛康太郎、杉崎三男、河村清史 ⁶⁾	環境化学、Vol.22、No.3、97-104 (2012)	181頁
ファーストフラッシュ浄化施設による道路流出水の変動的処理	中野和典 ³³⁾ 、山本道広 ³⁴⁾ 、亀田豊 ³⁵⁾ 、田中仁志、力石伸夫 ³⁶⁾	用水と廃水、Vol.54、No.8、630-637 (2012)	181頁
Diagnosis of the ageing of water pipe systems by water quality and structure of iron corrosion in supplied water	Y. Ishiwatari ³⁷⁾ , I. Mishima, N. Utsuno ³⁸⁾ , M. Fujita ³⁷⁾	Water Science & Technology: Water Supply, Vol.13 No.1, 178-183 (2013)	181頁
液体クロマトグラフィー/タンデム型質量分析計を用いる河川水中ヘキサメチレンテトラミンの迅速定量	柿本貴志、茂木守、野尻喜好	分析化学、Vol.62、No.1、47-50 (2013)	182頁
鉄電解リン除去方式生活排水処理浄化槽システムにおける省エネルギー運転と浄化性能	菅原崇聖 ³⁹⁾ 、木持謙、田畑洋輔 ⁴⁰⁾ 、手塚圭治 ⁴⁰⁾ 、稲森隆平 ³⁹⁾ 、徐開欽 ¹⁰⁾ 、稲森悠平 ³⁹⁾	日本水処理生物学会誌、Vol.49、No.1、31-36 (2013)	182頁
Fluvial response to sea-level changes since the latest Pleistocene in the near-coastal lowland, central Kanto Plain, Japan	T. Ishihara ⁴¹⁾ , T. Sugai ⁴¹⁾ , S. Hachinohe	Geomorphology, Vols.147-148, 49-60 (2012)	182頁
Variations in the thermal conductivities of surface sediments in the Nankai subduction zone off Tokai, central Japan	S. Goto ²⁶⁾ , T. Mizoguchi ⁴²⁾ , R. Kimura ⁴³⁾ , M. Kinoshita ⁴⁴⁾ , M. Yamano ⁴⁵⁾ , H. Hamamoto	Marine Geophysical Research, Vol.33, Issue 3, 269-283 (2012)	183頁

(注) 執筆者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5. 4. 2 国際学会プロシーディング

(27件)

論文名	執筆者	会議録	抄録
Motor vehicles contribution to atmospheric bifunctional carbonyl compounds	R. Ortiz ⁵⁾ , S. Shimada ⁶⁾ , K. Sekiguchi ⁶⁾ , Q. Wang ⁶⁾ , K. Sakamoto	Proceedings of the 19th International Transport and Air Pollution Conference 2012, No.21 (2012) (26 Nov. 2012, Thessaloniki, Greece)	184頁
Atmospheric partitioning of bifunctional carbonyl compounds near a roadside in a suburban area	R. Ortiz ⁶⁾ , S. Shimada ⁶⁾ , K. Sekiguchi ⁶⁾ , Q. Wang ⁶⁾ , K. Sakamoto	Proceedings of the 19th International Transport and Air Pollution Conference 2012, No.22 (2012) (26 Nov. 2012, Thessaloniki, Greece)	184頁
Study on phytoremediation of heavy metals with biofuel plants and accumulator plants	K. Oh, T. Cao ⁴⁶⁾ , Q. Lin ²¹⁾ , S. Yonemochi, M. Ogawa ³¹⁾ , T. Hirano ⁴⁷⁾	Proceedings of the 2012 Spring World Congress on Engineering and Technology(SCET2012), 33349(2012) (29 May 2012, Xi'an, China)	184頁
Survey of waste electrical and electronic equipment in non-combustible municipal waste in Japan	K. Suzuki, Y. Isobe, Y. Watanabe, M. Kawasaki	Proceedings of the 7th Asian Pacific Landfill Symposium, P16-540-545(2012) (9 Oct. 2012, Bali, Indonesia)	185頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Comparison of several landfill gas compositions between Japan and Sri Lanka	M. Nagamori, Y. Isobe, Y. Watanabe, N.K. Wijewardane ⁴⁸⁾ , M.I.M. Mowjood ⁴⁸⁾ , T. Koide ⁶⁾ , K. Kawamoto ⁶⁾	Proceedings of the 7th Asian Pacific Landfill Symposium, P19-558-564(2012) (9 Oct. 2012, Bali, Indonesia)	185頁
Concentration method of asbestos in recycle residue of construction waste	M. Kawasaki, Y. Isobe	Proceedings of the 7th Asian Pacific Landfill Symposium, P21-570-574(2012) (9 Oct. 2012, Bali, Indonesia)	185頁
A study on proper treatment of noncombustible waste in MSW in Japan	Y. Isobe, M. Kawasaki, K. Suzuki, Y. Watanabe	Proceedings of the 7th Asian Pacific Landfill Symposium, P35-637-641(2012) (9 Oct. 2012, Bali, Indonesia)	186頁
Spatial variation in landfill gas composition under different precipitation condition and waste age in Sri Lanka	T. Koide ⁶⁾ , M. Nagamori, N.K. Wijewardane ⁴⁸⁾ , Y. Watanabe, Y. Isobe, G.B.B. Herath ⁴⁸⁾ , M.I.M. Mowjood ⁴⁸⁾ , K. Kawamoto ⁶⁾	Proceedings of the Special Session on Water & Waste Management - International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE 2012), SBE/12/234 (2012) (15 Dec. 2012, Kandy, Sri Lanka)	186頁
Flux measurements of greenhouse gases from an abandoned open dumping site of solid waste in Sri Lanka	M. Nagamori, T. Koide ⁶⁾ , N.K. Wijewardane ⁴⁸⁾ , Y. Watanabe, Y. Isobe, M.I.M. Mowjood ⁴⁸⁾ , T. Ishigaki ¹⁰⁾ , K. Kawamoto ⁶⁾	Proceedings of the Special Session on Water & Waste Management - International Conference on Sustainable Built Environment (ICSBE 2012), SBE/12/239 (2012) (15 Dec. 2012, Kandy, Sri Lanka)	186頁
Occurrence of perfluorinated compounds in effluent from large and small scale wastewater treatment plants in Saitama, Japan	M. Motegi, K. Nojiri, Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.74, 235-238 (2012) 32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2012) (27 Aug. 2012, Cairns, Australia)	187頁
Concentration profiles of halogenated polycyclic aromatic hydrocarbons in flue gas, bottom ash, and fly ash from waste incinerator	Y. Miyake ³²⁾ , L. Tang ³²⁾ , Y. Horii, K. Nojiri, N. Ohtsuka, Y. Fujimine ⁴⁹⁾ , T. Amagai ³²⁾	Organohalogen Compounds, Vol.74, 636-639 (2012) 32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2012) (28 Aug. 2012, Cairns, Australia)	187頁
Distribution and characteristics of dioxins in depositional process of kaolinitic clay sediment	Y. Horii, T. Kanamaru ³³⁾ , T. Takemura ³³⁾ , K. Furukawa ⁵⁰⁾ , N. Ohtsuka, K. Minomo, K. Nojiri	Organohalogen Compounds, Vol.74, 1425-1428 (2012) 32nd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2012) (30 Aug. 2012, Cairns, Australia)	187頁
Investigation into determination method of anti-malarial drugs in agricultural soil assumed as human urine reuse	H. Miyai ⁹⁾ , N. Hijikata ⁹⁾ , T. Kakimoto, N. Funamizu ⁹⁾	Proceedings of the 4th International Dry Toilet Conference, 103 (2012) (24 Aug. 2012, Tampere, Finland)	188頁
N ₂ O and CH ₄ control in a johkasou system by energy-saving operation	Y. Kimochi, K. Jono ⁵¹⁾ , H. Yamazaki ⁵²⁾ , A. Sano ¹⁰⁾ , K. Xu ^{10,19)} , Y. Inamori ³⁹⁾	Proceedings of the IWA Nutrient Removal and Recovery 2012 (2012) (24 Sep. 2012, Harbin, China)	188頁
Change in N ₂ O production from conventional activated sludge process by Tohoku Earthquake in Japan	I. Mishima, Y. Yoshida ³³⁾ , M. Fujita ³⁷⁾	Proceedings of the IWA Nutrient Removal and Recovery 2012 (2012) (24 Sep. 2012, Harbin, China)	188頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Climatological diversity of producing places for vegetables in Japan	Y. Masutomi	Abstract of 2012 AGU Fall Meeting, B43E-0454 (2012) (3 Dec. 2012, San Francisco, USA)	189頁
Study on tolerance and accumulation potential of biofuel crops for phytoremediation of heavy metals	K. Oh, T. Li ²⁰ , H.Y. Cheng ²⁰ , Y.H. Xie ²⁰ , S. Yonemochi	Abstract of the 4th International Conference on Environmental Science and Technology(ICEST 2013), M30012 (2013) (18 Mar. 2013, Macau, China)	189頁
Analysis of cyclic and linear volatile methylsiloxanes in water environment	Y. Horii, K. Minomo, M. Motegi, K. Nojiri	Abstract of SETAC North America 33rd Annual Meeting, 201 (2012) (12 Nov. 2012, Long Beach, USA)	189頁
Screening of novel halogenated aromatic hydrocarbons in environmental samples by GC coupled to high resolution TOFMS	Y. Horii, K. Nojiri, N. Yamashita ²⁶ , K. Kannan ³⁰ , T. Ohura ⁵³ , Y. Miyake ³²	Abstract of SETAC North America 33rd Annual Meeting, 204 (2012) (12 Nov. 2012, Long Beach, USA)	190頁
Comparison of observed and estimated concentrations of chlorinated PAHs using a Gaussian Dispersion Model in the vicinity of waste incinerator	Y. Miyake ³² , Q. Wang ³² , L. Tang ³² , Y. Horii, K. Nojiri, N. Ohtsuka	Abstract of SETAC North America 33rd Annual Meeting, 268 (2012) (13 Nov. 2012, Long Beach, USA)	190頁
Chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons in urban surface dust and soil of Shanghai, China	J. Ma ¹⁴ , J. Zheng ¹⁴ , Z. Chen ¹⁴ , M. Wu ¹⁴ , Y. Horii, T. Ohura ³² , K. Kannan ³⁰	Abstract of SETAC North America 33rd Annual Meeting, 364 (2012) (15 Nov. 2012, Long Beach, USA)	190頁
Evaluation of nitrous oxide production potential based on nitrite behavior in nitrification and denitrification process	I. Mishima, K. Ito ³³ , Y. Yoshida ³³ , M. Fujita ³⁷	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2012, 30-1A-06 (2012) (30 Jun. 2012, Tokyo, Japan)	191頁
Investigation into determination method of anti-malarial drugs in environmental water and soil	N. Hijikata ⁹ , T. Kakimoto, H. Miyai ⁹ , N. Funamizu ⁹	Abstract of SETAC Asia Pacific 2012, 2P-4-7 (2012) (26 Sep. 2012, Kumamoto, Japan)	191頁
Heat flow distribution on the Nankai Trough Floor and its relation to the structure of the Shikoku Basin oceanic crust	M. Yamano ⁴⁵ , Y. Kawada ⁴⁵ , S. Goto ²⁶ , H. Hamamoto	Abstract of the Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) 2012, SE52-A015 (2012) (16 Aug. 2012, Singapore)	191頁
Reconstruction of the thermal environment evolution from subsurface temperature distribution in Japan and Thailand	H. Hamamoto, M. Yamano ⁴⁵ , S. Goto ²⁶ , S. Hachinohe, H. Shiraishi, T. Ishiyama, A. Miyakoshi ²⁶ , M. Taniguchi ⁵⁴ , H. Arimoto ⁵⁵ , K. Kitaoka ⁵⁶	Abstract of 2012 AGU Fall Meeting, GC23C-1084 (2012) (4 Dec. 2012, San Francisco, USA)	192頁
Current situation and regional characteristics of groundwater quality in central part of the Kanto Plain, Japan	S. Hachinohe, H. Hamamoto, T. Ishiyama, T. Hayashi ⁵⁷ , A. Miyakoshi ²⁶ , M. Yasuhara ²⁶	Abstract of 2012 AGU Fall Meeting, H41E-1218 (2012) (6 Dec. 2012, San Francisco, USA)	192頁
Vertical directivities of seismic arrays on the ground surface	H. Shiraishi, H. Asanuma ⁵⁸	Abstract of 2012 AGU Fall Meeting, S51C-2440 (2012) (7 Dec. 2012, San Francisco, USA)	192頁

(注) 執筆者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5.4.3 総説・解説

(11件)

題名	執筆者	掲載誌	抄録
PM2.5と大気環境	坂本和彦	JAMAGAZINE、Vol.46、No.6、6-11 (2012)	193頁
近年の大気汚染問題をめぐる状況と広域大気汚染総合対策への考え方	坂本和彦	日中環境産業、Vol.48、No.9、14-17 (2012)	193頁
PM2.5の成分から見た汚染実態と濃度推移	米持真一	環境技術、Vol.41、No.5、269-274 (2012)	193頁
一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究(その1)及び(その2)	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一	都市清掃、Vol.65、No.307、237-248 (2012)	194頁
東日本大震災後の東北及び関東地方における一般廃棄物焼却施設の発電状況実態調査	鈴木和将、大島誠 ²³⁾ 、川本克也 ¹⁰⁾	都市清掃、Vol.65、No.307、304-308 (2012)	194頁
一般廃棄物最終処分場の現状と課題	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一	廃棄物資源循環学会誌、Vol.23、No.5、366-372 (2012)	194頁
不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価に関する研究(平成23年度末中間報告)	山脇敦 ⁵⁹⁾ 、島岡隆行 ⁶⁰⁾ 、大嶺聖 ⁶⁰⁾ 、勝見武 ⁶¹⁾ 、川寄幹生、土居洋一 ⁶²⁾ 、柴暁利 ⁶³⁾ 、坂口伸也 ⁶⁴⁾	産廃振興財団NEWS、Vol.20、No.67、4-8 (2012)	195頁
未規制化学物質の測定・評価・管理に関する最新研究課題 -若手研究者からの発信-	三宅祐一 ³²⁾ 、堀井勇一	環境科学会誌、Vol.25、No.6、459-462 (2012)	195頁
残留性有機汚染物質の安定同位体比解析 -分析法からダイオキシン天然生成解析への応用まで-	堀井勇一、山下信義 ²⁶⁾	ぶんせき、No.3、140-145 (2013)	195頁
"地環研"で働く	見島伊織	水環境学会誌、Vol.35(A)、No.10、345-346 (2012)	196頁
珪藻化石と岩相に基づく関東平野中央部で掘削されたボーリングコアの海成層準の認定	納谷友規 ²⁶⁾ 、八戸昭一、松島紘子 ⁶⁵⁾ 、水野清秀 ²⁶⁾	地質調査研究報告、Vol.63、No.5-6、147-180 (2012)	196頁

(注) 執筆者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5.4.4 国内学会発表

(97件)

期日	学会の名称	発表タイトル	発表者及び共同研究者	抄録
H24. 5. 18	第63回全国水道研究発表会 (松江市)	配水管の管種・使用年数と水道水中懸濁物の構成元素との関係	石渡恭之 ³⁷⁾ 、津金大夢 ³⁷⁾ 、見島伊織、藤田昌史 ³⁷⁾	214頁
H24. 5. 20	日本地球惑星科学連合2012年大会 (千葉市)	放棄された開放投棄地内の埋立ガスについて:スリランカ中央州・ウダパラータ/ガンボラサイトにおける研究事例	小出隆広 ⁶⁾ 、長森正尚、N.K. Wijewardane ⁴⁸⁾ 、渡辺洋一、磯部友護、M.I.M. Mowjood ⁴⁸⁾ 、川本健 ⁶⁾	206頁
H24. 5. 23	日本地球惑星科学連合2012年大会 (千葉市)	セメント系材料の混入による土壌中自然含有重金属類の溶出可能性に関する研究	北口竜太 ⁶⁾ 、八戸昭一、小口千明 ⁶⁾	218頁
H24. 5. 24	日本地球惑星科学連合2012年大会 (千葉市)	荒川・妻沼低地と中川・渡良瀬低地における沖積層とその基底地形	石原武志 ⁴¹⁾ 、須貝俊彦 ⁴¹⁾ 、八戸昭一	218頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 5. 24	日本地球惑星科学連合 2012年大会 (千葉市)	関東平野の自然地層中に含まれる重金属 類とその特徴について	八戸昭一、石山高、 濱元栄起、北口 竜 太 ⁶⁾ 、小口千明 ⁶⁾ 、 K.G.I.D. Kumari ⁶⁶⁾	219頁
H24. 5. 24	日本地球惑星科学連合 2012年大会 (千葉市)	南海トラフ付加体分岐断層付近における熱 流量の高密度測定	山野誠 ⁴⁵⁾ 、川田佳 史 ⁴⁵⁾ 、濱元栄起、後 藤秀作 ²⁶⁾	219頁
H24. 5. 24	日本地球惑星科学連合 2012年大会 (千葉市)	南海トラフ底の熱流量分布:巨大地震発生 帯の温度構造との関係	山野誠 ⁴⁵⁾ 、後藤秀 作 ²⁶⁾ 、川田佳史 ⁴⁵⁾ 、 濱元栄起	219頁
H24. 5. 24	日本地球惑星科学連合 2012年大会 (千葉市)	埼玉県における地中熱利用ポテンシャル 評価	濱元栄起、八戸昭 一、白石英孝、石山 高、佐坂公規	219頁
H24. 6. 14	第18回地下水・土壌汚染 とその防止対策に関する 研究集会 (さいたま市)	埼玉県中西部における地下水砒素汚染と 形態分析による溶出メカニズムの検討	石山高、八戸昭一、 濱元栄起、白石英 孝、細野繁雄	220頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	水田土壌における除草剤プロモブチド及び その脱臭素化代謝物質の減少	大野正貴 ²²⁾ 、諸橋 将雪 ²²⁾ 、長沢俊輔 ²²⁾ 、塩谷奈美 ²²⁾ 、鈴 木和将、小瀬知洋 ²²⁾ 、川田邦明 ²²⁾	206頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	製品中のPFOS、PFOA及びそれらの前駆 物質濃度	茂木守、野尻喜好、 堀井勇一	211頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	継続的な大気中ダイオキシン類の調査と汚 染原因の解析	大塚宜寿、蓑毛康 太郎、野尻喜好	211頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	学校に設置されている小型焼却炉内の残 留灰中のダイオキシン類	蓑毛康太郎、大塚 宜寿、野尻喜好、茂 木守、堀井勇一	211頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	飛行時間型GC/MSを用いる焼却施設試料 中ハロゲン化芳香族群の検索	堀井勇一、野尻喜 好、大塚宜寿、大浦 健 ⁵³⁾ 、三宅祐一 ³²⁾	212頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	カオリン質粘土の窯業利用に伴うダイオキ シン類の動態と環境負荷量推定	堀井勇一、大塚宜 寿、蓑毛康太郎、野 尻喜好	212頁
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会 (松山市)	廃棄物焼却施設からのハロゲン化多環芳 香族炭化水素類の排出傾向	三宅祐一 ³²⁾ 、唐亮 ³²⁾ 、堀井勇一、野尻 喜好、大塚宜寿、雨 谷敬史 ³²⁾	212頁
H24. 7. 26	第49回下水道研究発表会 (神戸市)	消費電力抑制のための運転条件変更が窒 素除去およびN ₂ O生成に与える影響	見島伊織、伊藤耕 輔 ³³⁾ 、吉田征史 ³³⁾ 、 藤田昌史 ³⁷⁾	214頁
H24. 8. 20	日本第四紀学会2012年大 会 (立正大学)	荒川・妻沼低地と中川・渡良瀬低地にお けるMIS3以降の地形発達と比較	石原武志 ⁴¹⁾ 、須貝 俊彦 ⁴¹⁾ 、八戸昭一	220頁
H24. 8. 28	日本エアロゾル学会第29 回エアロゾル科学・技術研 究討論会 (北九州市)	Dynamic behaviors of bifunctional carbonyl compounds in the atmosphere	R. Ortiz ⁶⁾ , S. Shimada ⁶⁾ , K. Sekiguchi ⁶⁾ , Q. Wang ⁶⁾ , K. Sakamoto	197頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 8. 28	日本エアロゾル学会第29回エアロゾル科学・技術研究討論会(北九州市)	2011年夏季関東都市・郊外におけるエアロゾル質量スペクトルのPMF解析	萩野浩之 ⁶⁷⁾ 、森川多津子 ⁶⁷⁾ 、長谷川就一、米持真一、関口和彦 ⁶⁾ 、森田諒 ⁶⁾ 、熊谷貴美代 ⁶⁸⁾ 、山口直哉 ⁶⁸⁾ 、飯島明宏 ⁶⁹⁾ 、嶋寺光 ¹⁵⁾ 、速水洋 ¹⁵⁾	198頁
H24. 8. 30	日本エアロゾル学会第29回エアロゾル科学・技術研究討論会(北九州市)	夏季と冬季の関東地方におけるPM2.5成分の高時間分解同時観測	長谷川就一、米持真一、熊谷貴美代 ⁶⁸⁾ 、山口直哉 ⁶⁸⁾ 、萩野浩之 ⁶⁷⁾ 、関口和彦 ⁶⁾ 、飯島明宏 ⁶⁹⁾ 、嶋寺光 ¹⁵⁾ 、速水洋 ¹⁵⁾	198頁
H24. 9. 6	土木学会全国大会第67回年次学術講演会(名古屋大学)	XAFS測定による消火栓水道水中のFe形態解析	見島伊織、石渡恭之 ³⁷⁾ 、藤田昌史 ³⁷⁾	214頁
H24. 9. 11	日本機械学会2012年度年次大会(金沢大学)	等価的音源同定に基づく音場推定法開発のための基礎研究	川島美香 ⁷⁰⁾ 、岩佐一樹 ⁷⁰⁾ 、大熊政明 ⁷⁰⁾ 、白石英孝	220頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	関東甲信静地域における合同調査から見た最近のPM2.5の状況	米持真一	198頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	埼玉県騎西町における夏期の大気中ガスおよび粒子状成分濃度調査(2)	松本利恵、梅沢夏実、米持真一	198頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	調査結果から推測される有害大気汚染物質別の発生源距離	梅沢夏実、竹内庸夫、松本利恵、米持真一、佐坂公規、長谷川就一	199頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	埼玉県の環境大気中における酸化エチレン濃度の経年変動	佐坂公規、梅沢夏実	199頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	都市大気におけるサブミクロン粒子の特性比較	柳本悠輔 ⁷¹⁾ 、米持真一、名古屋俊士 ⁷¹⁾	199頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	沖縄辺戸岬における炭素質エアロゾルの長期トレンド	島田幸治郎 ⁷²⁾ 、高見昭憲 ¹⁰⁾ 、長谷川就一、伏見暁洋 ¹⁰⁾ 、梶井克純 ⁶¹⁾ 、加藤俊吾 ⁷³⁾ 、島山史郎 ⁷²⁾	199頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	微小粒子状物質等大気汚染物質による小児の肺機能発達への影響に関するコホート研究(第1報):研究デザイン	武林亨 ⁷⁴⁾ 、朝倉敬子 ⁷⁴⁾ 、新田裕史 ¹⁰⁾ 、竹内文乃 ¹⁰⁾ 、上田佳代 ¹⁰⁾ 、小田嶋博 ⁷⁵⁾ 、長谷川就一、塚原照臣 ⁷⁶⁾ 、今野哲 ⁹⁾ 、森川みき ⁷⁷⁾ 、向井奉文 ⁷⁸⁾ 、吉村健清 ⁷⁹⁾	200頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	粒子状炭素成分測定におけるアーティファクトの影響検討(2)	長谷川就一	200頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会(神奈川大学)	微小粒子状物質の環境測定の実状と疫学研究における環境測定	長谷川就一	200頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	遺伝子発現による植物のストレス診断はど こまで出来るか？	青野光子 ¹⁰⁾ 、三輪 誠、岡崎淳 ⁸⁰⁾ 、武田 麻由子 ¹⁶⁾ 、小松宏 昭 ¹⁶⁾ 、山神真紀子 ⁸¹⁾ 、 中島寛則 ⁸¹⁾ 、岡 村祐里子 ⁸¹⁾ 、須田 隆一 ⁸²⁾ 、中村朋史 ⁸²⁾ 、 古川誠 ⁸³⁾ 、柳沼 圭吾 ⁸³⁾ 、渡邊稔 ⁸³⁾ 、 横山仁 ⁸⁴⁾ 、久保明 弘 ¹⁰⁾ 、佐治光 ¹⁰⁾	205頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	熱中症予防対策のための簡易大気熱環境 指標の検討と予防情報の発信に関する検 討	米倉哲志	205頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	栽培時期が異なるハウレンソウに対するオ ゾンの影響 - 葉に発現する可視被害と 気孔密度との関係に着目して -	三輪誠、印南ゆかり ⁸⁵⁾	205頁
H24. 9. 12	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	葉に発現する可視被害の程度に基づいた コマツナの品種間オゾン感受性差異の評 価	印南ゆかり ⁸⁵⁾ 、三輪 誠	205頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	全国酸性雨調査(78) - 乾性沈着(沈着量 の推計) -	松本利恵、野口泉 ⁸⁶⁾ 、 松尾清孝 ⁸⁷⁾ 、竹 内淨 ⁸⁷⁾ 、財原宏一 ⁸⁷⁾ 、 松田和秀 ⁸⁸⁾	200頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	2011年2月の国内におけるPM2.5の高濃度 現象の解析(3)	山神真紀子 ⁸¹⁾ 、佐 川竜也 ⁸⁹⁾ 、中戸靖 子 ⁹⁰⁾ 、長田健太郎 ⁹¹⁾ 、 米持真一、山本 勝彦 ⁹⁰⁾ 、山田大介 ⁸⁷⁾ 、 芝和代 ⁹²⁾ 、山田 克則 ⁹³⁾ 、菅田誠治 ¹⁰⁾ 、 大原利真 ¹⁰⁾ 、II 型共同研究グルー プ	201頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	北京での炭素性エアロゾルの発生源解析	森野悠 ¹⁰⁾ 、大原利 真 ¹⁰⁾ 、長谷川就一、 伏見暁洋 ¹⁰⁾ 、近藤 美由紀 ¹⁰⁾ 、内田昌 男 ¹⁰⁾ 、田邊潔 ¹⁰⁾ 、山 地一代 ⁴⁴⁾ 、B. Zhao ⁹⁴⁾ 、 J. Xu ⁹⁴⁾ 、J. Hao ⁹⁴⁾	201頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	全国の環境研究機関の有機的連携による PM2.5汚染の実態解明	菅田誠治 ¹⁰⁾ 、板野 泰之 ⁹⁵⁾ 、飯島明宏 ⁶⁹⁾ 、 山本勝彦 ⁹⁰⁾ 、山 本重一 ⁸²⁾ 、谷口延 子 ⁹⁶⁾ 、秋山雅行 ⁸⁶⁾ 、 大原利真 ¹⁰⁾ 、山神 真紀子 ⁸¹⁾ 、山崎敬 久 ⁹⁷⁾ 、長谷川就一、 三田村徳子 ⁹⁸⁾ 、長 田健太郎 ⁹¹⁾ 、田村 圭 ⁹⁹⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁰⁾ 、 佐川竜也 ⁸⁹⁾	201頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	埼玉県における近年の光化学オキシダント 濃度の推移とその要因	竹内庸夫	201頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	多変量解析によるPM2.5高濃度イベントの 解釈	飯島明宏 ⁶⁹⁾ 、山本 勝彦 ⁹⁰⁾ 、山本重一 ⁸²⁾ 、谷口延子 ⁹⁶⁾ 、秋 山雅行 ⁸⁶⁾ 、山崎敬 久 ⁹⁷⁾ 、長谷川就一、 三田村徳子 ⁹⁸⁾ 、長 田健太郎 ⁹¹⁾ 、田村 圭 ⁹⁹⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁰⁾ 、 佐川竜也 ⁸⁹⁾ 、菅田 誠治 ¹⁰⁾ 、大原利眞 ¹⁰⁾	202頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	2012年1月中旬に観測されたPM2.5高濃度 イベントにおける炭素成分の挙動	中戸靖子 ⁹⁰⁾ 、山本 勝彦 ⁹⁰⁾ 、秋山雅行 ⁸⁶⁾ 、長谷川就一、山 本重一 ⁸²⁾ 、谷口延 子 ⁹⁶⁾ 、山崎敬久 ⁹⁷⁾ 、 三田村徳子 ⁹⁸⁾ 、長 田健太郎 ⁹¹⁾ 、田村 圭 ⁹⁹⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁰⁾ 、 佐川竜也 ⁸⁹⁾ 、菅田 誠治 ¹⁰⁾ 、大原利眞 ¹⁰⁾	202頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	2012年1月中旬に観測されたPM2.5高濃度 イベントにおけるイオン成分の挙動	山本重一 ⁸²⁾ 、下原 孝章 ⁸²⁾ 、濱村研吾 ⁸²⁾ 、山本勝彦 ⁹⁰⁾ 、谷 口延子 ⁹⁶⁾ 、山崎敬 久 ⁹⁷⁾ 、長谷川就一、 三田村徳子 ⁹⁸⁾ 、長 田健太郎 ⁹¹⁾ 、田村 圭 ⁹⁹⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁰⁾ 、 佐川竜也 ⁸⁹⁾ 、菅田 誠治 ¹⁰⁾ 、大原利眞 ¹⁰⁾	202頁
H24. 9. 13	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	2012年1月中旬に観測されたPM2.5高濃度 イベントにおける無機元素の挙動	日置正 ⁹⁶⁾ 、谷口延 子 ⁹⁶⁾ 、山本勝彦 ⁹⁰⁾ 、 中戸靖子 ⁹⁰⁾ 、山本 重一 ⁸²⁾ 、山崎敬久 ⁹⁷⁾ 、長谷川就一、三 田村徳子 ⁹⁸⁾ 、田村 圭 ⁹⁹⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁰⁾ 、 佐川竜也 ⁸⁹⁾ 、菅田 誠治 ¹⁰⁾ 、大原利眞 ¹⁰⁾	202頁
H24. 9. 13	環境科学会2012年会 (横浜国立大学)	廃棄物焼却ガス・飛灰・焼却灰中の塩素化 多環芳香族炭化水素類の媒体間挙動	三宅祐一 ³²⁾ 、唐亮 ³²⁾ 、王齊 ³²⁾ 、雨谷敬 史 ³²⁾ 、堀井勇一、野 尻喜好、大塚宜寿	212頁
H24. 9. 13	環境科学会2012年会 (横浜国立大学)	廃棄物焼却炉からのハロゲン化多環芳香 族炭化水素類の排出情報に基づく周辺住 民への暴露濃度推定	王齊 ³²⁾ 、三宅祐一 ³²⁾ 、唐亮 ³²⁾ 、雨谷敬 史 ³²⁾ 、堀井勇一、野 尻喜好、大塚宜寿	213頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	堂平山観測所における二酸化炭素高濃度 事例解析について	武藤洋介	197頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	関東甲信静におけるPM2.5のキャラクタリゼーション(第3報)	米持真一、関東地方大気環境対策推進連絡会	203頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	関東地方におけるPM2.5無機イオンの高時間分解同時観測－夏季と初冬季との比較－	米持真一、長谷川就一、萩野浩之 ⁶⁷⁾ 、山口直哉 ⁶⁸⁾ 、熊谷貴美代 ⁶⁸⁾ 、関口和彦 ⁶⁾ 、飯島明宏 ⁶⁹⁾ 、速水洋 ¹⁵⁾	203頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	さいたま市・埼玉県による粒子状物質調査－地点別・粒径別に見た化学組成の比較－	城裕樹 ¹⁰¹⁾ 、米持真一、梅沢夏実、長谷川就一	203頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	わが国における大気中HONOの挙動(3)	野口泉 ⁸⁶⁾ 、山口高志 ⁸⁶⁾ 、岩崎綾 ¹⁰²⁾ 、松本利恵、堀尾拓矢 ¹⁰³⁾ 、堀江洋佑 ¹⁰⁴⁾ 、浴口智行 ¹⁰⁵⁾ 、桑尾房子 ¹⁰⁶⁾ 、恵花孝昭 ¹⁰⁷⁾ 、松田和秀 ⁸⁸⁾	203頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	関東、富士山頂および上海で採取したPM1の特徴と磁気分離法の適用	米持真一、梅沢夏実、王効拳、大河内博 ⁷¹⁾ 、名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、緒方裕子 ⁷¹⁾ 、原田侑己 ⁷¹⁾ 、柳本悠輔 ⁷¹⁾ 、S. Lu ¹⁴⁾ 、R. Zhang ¹⁴⁾ 、X.F. Hu ¹⁴⁾	204頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	沿道と一般環境における大気中ナノ粒子の粒径分布の長期観測(2004－2011)	高橋克行 ¹³⁾ 、藤谷雄二 ¹⁰⁾ 、伏見暁洋 ¹⁰⁾ 、長谷川就一、田邊潔 ¹⁰⁾ 、小林伸治 ¹⁰⁾	204頁
H24. 9. 14	第53回大気環境学会年会 (神奈川大学)	2011年11月に関東で観測されたPM2.5高濃度の解析	長谷川就一、米持真一、山田大介 ¹⁰⁸⁾ 、鈴木義浩 ⁸⁷⁾ 、石井克巳 ⁸⁰⁾ 、齊藤伸治 ⁸⁴⁾ 、鴨志田元喜 ¹⁰⁹⁾ 、熊谷貴美代 ⁶⁸⁾ 、国立環境研究所・II型共同研究グループ(観測グループ、関東甲信静グループ)	204頁
H24. 9. 14	環境科学会2012年会 (横浜国立大学)	新規PBT候補物質 揮発性メチルシロキサンの環境分析法の最前線	堀井勇一	213頁
H24. 9. 15	日本陸水学会第77回大会 (名古屋大学)	琵琶湖と山の神沼の底質を用いた藻類のシードバンク機能について	古田世子 ⁹⁸⁾ 、廣瀬佳則 ⁹⁸⁾ 、藤原直樹 ⁹⁸⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、田中仁志、馬場大哉 ¹¹⁰⁾ 、郡司房子 ¹¹⁰⁾ 、岸本直之 ¹¹¹⁾ 、西村修 ⁵⁸⁾	214頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 9. 15	日本陸水学会第77回大会 (名古屋大学)	溶存酸素量の違いが湖沼底質の藻類シー ドバンク機能に及ぼす影響	田中仁志、古田世 子 ⁹⁸⁾ 、藤原直樹 ⁹⁸⁾ 、 一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、馬場大 哉 ¹¹⁰⁾ 、岸本直之 ¹¹¹⁾ 、西村修 ⁵⁸⁾	215頁
H24. 9. 16	日本陸水学会第77回大会 (名古屋大学)	琵琶湖における沿岸帯の機能とその影響 因子の評価について	一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、古田世 子 ⁹⁸⁾ 、山中直 ⁹⁸⁾ 、田 中仁志、馬場大哉 ¹¹⁰⁾ 、岸本直之 ¹¹¹⁾ 、 西村修 ⁵⁸⁾	215頁
H24. 9. 17	日本陸水学会第77回大会 (名古屋大学)	湖沼沿岸域底質の酸素消費速度に関する 研究	奥村浩気 ¹¹¹⁾ 、岸本 直之 ¹¹¹⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、 馬場大哉 ¹¹⁰⁾ 、田中 仁志	215頁
H24. 9. 19	日本分析化学会第61年会 (金沢大学)	建設廃棄物破碎選別残さ中の石綿含有評 価のための前処理法の検討	川寄幹生、磯部友 護、遠藤和人 ¹⁰⁾ 、山 田正人 ¹⁰⁾	207頁
H24. 9. 28	The first China-Japan Aerosol Symposium (Kanazawa Univ., Japan)	Monitoring and chemical analysis of PM2.5 in Japan and comparison of elemental and organic carbon in the urban atmosphere of Tokyo and Beijing areas	S. Hasegawa	204頁
H24. 10. 3	日本気象学会2012年度秋 季大会(北海道大学)	陸面過程モデルMATSIROへの作物生長 モデルの組み込み	増富祐司、間野正 美 ¹¹²⁾ 、滝本貴弘 ¹¹³⁾ 、宮田明 ¹¹³⁾	197頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に 関する研究 乾式比重差選別機を用いた 処理不燃残さの選別試験	川寄幹生、磯部友 護、鈴木和将、渡辺 洋一	207頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	各種粘土鉱物及び自然土壌を用いたセシ ウム・ストロンチウムの吸脱着反応	加古賢一郎 ¹¹⁴⁾ 、鈴 木和将、川寄幹生、 東條安匡 ⁹⁾ 、小野雄 策 ¹¹⁴⁾	207頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	複数の物理探査を用いた最終処分場にお ける内部構造の把握手法の検討	磯部友護、大石修 ⁸⁰⁾ 、大野博之 ¹³⁾ 、遠 藤和人 ¹⁰⁾	207頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	廃棄物層調査における電磁探査法の適用 事例(3)	大石修 ⁸⁰⁾ 、香村一 夫 ⁷¹⁾ 、磯部友護、田 中宏和 ⁹³⁾	208頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	最終処分される産業廃棄物の分類ごとの 性状調査と管理方法の検討	浦野真弥 ¹¹⁵⁾ 、渡辺 洋一、小野雄策 ¹¹⁴⁾ 、 谷川昇 ¹¹⁶⁾	208頁
H24. 10. 22	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	アスベスト含有建材の迅速判定法(建材断 面画像の解析法検討)	渡辺洋一、川寄幹 生、磯部友護、鈴木 和将、小野雄策 ¹¹⁴⁾	208頁
H24. 10. 24	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	東日本大震災後の発電設備を有する一般 廃棄物焼却施設の対応	鈴木和将、大島誠 ²³⁾ 、川本克也 ¹⁰⁾	208頁
H24. 10. 24	第23回廃棄物資源循環学 会研究発表会(仙台市)	不法投棄等現場の廃棄物を用いた安息角 試験による簡易法面安定評価手法	土居洋一 ⁶²⁾ 、山脇 敦 ⁵⁹⁾ 、川寄幹生	209頁
H24. 11. 16	日本音響学会騒音・振動 研究会(熊本大学)	さいたま市における交通振動・騒音に対す る社会反応について	松本泰尚 ⁶⁾ 、田中彩 ¹¹⁷⁾ 、横島潤紀 ¹⁶⁾ 、白 石英孝	220頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H24. 11. 16	地下水地盤環境に関する シンポジウム2012 (大阪市)	大阪地盤における地下温度鉛直分布の地域性(その2)	有本弘孝 ⁵⁵⁾ 、北岡豪一 ⁵⁶⁾ 、谷口真人 ⁵⁴⁾ 、濱元栄起	221頁
H24. 11. 25	日本水処理生物学会第49 回大会(北里大学)	活性汚泥法における連続/間欠曝気法の 亜酸化窒素発生特性解析	城野晃志 ⁵¹⁾ 、佐野彰 ¹⁰⁾ 、小椋有未永 ¹⁰⁾ 、徐開欽 ¹⁰⁾ 、木持謙、稲森悠平 ³⁹⁾ 、内海真生 ⁵¹⁾ 、杉浦則夫 ⁵¹⁾	215頁
H24. 12. 4	第26回環境情報科学学術 研究論文発表会 (東京都千代田区)	家畜排泄物堆肥化における副資材調達の 需給構造とその最適化についてのモデル 解析	長谷隆仁、渡辺洋一、河村清史 ⁶⁾	209頁
H25. 2. 7	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	廃棄物系バイオマスの新規合金触媒等によるガス化・改質特性	鈴木和将、川本克也 ¹⁰⁾ 、魯保旺 ¹⁰⁾ 、田川智彦 ¹¹⁸⁾ 、山田博史 ¹¹⁸⁾	209頁
H25. 2. 8	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究(その3)～不燃ごみ中の廃電化製品調査～	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一、小野雄策 ¹¹⁴⁾	209頁
H25. 2. 8	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	安定化から見た管理型最終処分場の内部性状に関する研究	磯部友護、椿雅俊 ¹¹⁹⁾ 、東條安匡 ⁹⁾	210頁
H25. 2. 8	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	石綿含有成形板の目視判定法(その2)～ 建材断面中石綿面積の測定法について～	渡辺洋一、川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、中島知樹 ¹¹⁴⁾ 、小野雄策 ¹¹⁴⁾	210頁
H25. 2. 8	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	敷設された再生砕石中に含まれるアスベスト含有率の評価と試料採取法について	中島知樹 ¹¹⁴⁾ 、山梨大樹 ¹¹⁴⁾ 、渡辺洋一、川寄幹生、小野雄策 ¹¹⁴⁾	210頁
H25. 2. 8	第34回全国都市清掃研究 ・事例発表会(北九州市)	最終処分場の中間覆土におけるセシウム・ ストロンチウムの吸脱着	加古賢一郎 ¹¹⁴⁾ 、村上大 ¹¹⁴⁾ 、小野雄策 ¹¹⁴⁾ 、鈴木和将、東條安匡 ⁹⁾	210頁
H25. 3. 6	第60回日本生態学会大会 (静岡市)	間伐強度の異なるスギ人工林における栄養塩の循環	林誠二 ¹⁰⁾ 、渡邊未来 ¹⁰⁾ 、越川昌美 ¹⁰⁾ 、渡邊圭司、多田千佳 ⁵⁸⁾ 、深澤遊 ⁵⁸⁾ 、清和研二 ⁵⁸⁾	216頁
H25. 3. 6	第60回日本生態学会大会 (静岡市)	間伐強度の違いが土壌細菌叢に与える影響	渡邊圭司、渡邊未来 ¹⁰⁾ 、林誠二 ¹⁰⁾ 、多田千佳 ⁵⁸⁾ 、清和研二 ⁵⁸⁾	216頁
H25. 3. 11	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	Effect of different plants on copper speciation in a contaminated agricultural soil	程紅艷 ²⁰⁾ 、謝英荷 ²⁰⁾ 、李涛 ²⁰⁾ 、王効举	206頁
H25. 3. 11	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	都市ごみ焼却飛灰の洗浄処理における1,4- ジオキサン溶出特性	畑本通子 ¹²⁰⁾ 、筒井裕文 ¹²⁰⁾ 、陳小強 ¹²⁰⁾ 、康峪梅 ¹²⁰⁾ 、藤原拓 ¹²⁰⁾ 、深堀秀史 ¹²¹⁾ 、倉田泰人	211頁

期 日	学会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 3. 11	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	淡水圏から分離したポリリン酸蓄積細菌の 諸性質	渡邊圭司、高橋基 之、渡邊未来 ¹⁰⁾ 、山 村茂樹 ¹⁰⁾ 、今井章 雄 ¹⁰⁾ 、林誠二 ¹⁰⁾	216頁
H25. 3. 11	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻 類に及ぼす影響	田中仁志、早川和 秀 ⁹⁸⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、藤 嶽暢英 ¹²²⁾ 、中村省 吾 ¹²³⁾	216頁
H25. 3. 12	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	バージアンドトラップによるフッ素テロマー アルコール類の測定	野尻喜好、茂木守、 堀井勇一	213頁
H25. 3. 12	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	実下水処理場における負荷変動が硝化活 性およびN ₂ O生成活性に与える影響	見島伊織、吉田征 史 ³³⁾ 、藤田昌史 ³⁷⁾	217頁
H25. 3. 12	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	埼玉県内河川における浮遊性藻類の現況 調査	柿本貴志、池田和 弘、見島伊織、高橋 基之	217頁
H25. 3. 13	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	東京湾流入河川における揮発性メチルシロ キサン濃度の分布:分析法検討を中心に	堀井勇一、蓑毛康 太郎、野尻喜好	213頁
H25. 3. 13	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	琵琶湖北湖東岸における護岸形態と底質 の関係	奥村浩気 ¹¹¹⁾ 、岸本 直之 ¹¹¹⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、 馬場大哉 ¹¹⁰⁾ 、田中 仁志	217頁
H25. 3. 13	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	微量化学物質の細胞膜への分配に与える 河川および下水処理水中溶存有機物質の 影響	池田和弘、清水芳 久 ⁶¹⁾	217頁
H25. 3. 13	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	霞ヶ浦底泥の脱窒による窒素負荷削減の 寄与について	北村立実 ¹⁰⁹⁾ 、吉尾 卓宏 ¹⁰⁹⁾ 、須能紀之 ¹²⁴⁾ 、渡邊圭司、林 誠二 ¹⁰⁾ 、黒田久雄 ³⁷⁾	218頁
H25. 3. 13	第47回日本水環境学会年会 (大阪工業大学)	配水管ネットワーク中の懸濁態元素組成の 変化に及ぼす要因	石渡恭之 ³⁷⁾ 、加藤 健 ³⁸⁾ 、見島伊織、宇 津野典彦 ¹⁰⁹⁾ 、藤田 昌史 ³⁷⁾	218頁
H25. 3. 26	日本農業気象学会2013年 全国大会(石川県立大学)	全球大気-作物結合モデルの開発	増富祐司	197頁
H25. 3. 27	日本農業気象学会2013年 全国大会(石川県立大学)	生育時期別オゾン暴露が水稻の収量に及 ぼす影響	米倉哲志	206頁

(注) 共同研究者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5. 4. 5 その他の研究発表

(55件)

期 日	発表会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者
H24. 6. 1	平成24年度廃棄物資源循 環学会研究討論会 (川崎市)	アスベスト含有建材の迅速判定方法の検討	渡辺洋一、川崎幹生、 磯部友護、鈴木和将
H24. 6. 6	地球温暖化を見据えた農 業環境予測と農業技術開 発のための情報交換会 (須坂市)	長野県を対象とした果樹・野菜への温暖化影響 予測と産地多様性	増富祐司
H24. 6. 21	日本水環境学会第32回通 常総会(東京都江戸川区)	Application of iron electrolysis to full-scale activated sludge process for phosphorus removal	見島伊織

期 日	発表会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者
H24. 6. 30	平成24年度海外学術調査フェスタ（府中市）	中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技術の確立	王効挙、米持真一、磯部友護、細野繁雄、謝英荷 ²⁰⁾ 、程紅艷 ²⁰⁾ 、胡雪峰 ¹⁴⁾ 、曹鉄華 ⁴⁶⁾
H24. 7. 6	埼玉県下水道公社第22回調査研究事業報告会（戸田市）	埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量の把握と発生抑制方法の基礎的検討	見島伊織、柿本貴志
H24. 7. 6	全環研協議会関東甲信静支部騒音振動専門部会（長野市）	家屋振動の調査事例	白石英孝
H24. 7. 11	第21回環境化学討論会セミナー（松山市）	次世代POPs：ハロゲン化多環芳香族炭化水素類の最新研究動向	三宅祐一 ³²⁾ 、堀井勇一
H24. 7. 25	International Symposium on Subsurface Warming and Geothermal Energy (Kyoto, Japan)	Reconstruction of surface warming from borehole temperature in Osaka	H. Hamamoto
H24. 7. 27	酸性雨情報交換会（名古屋市）	乾性沈着推計ファイルについて	松本利恵
H24. 8. 29	日本エアロゾル学会第29回エアロゾル科学・技術研究討論会（北九州市）	大気汚染情報をどのように社会へ伝え、生かすか	長谷川就一
H24. 9. 6	日本長期生態学研究ネットワーク JaLTER 2012年度All Scientists Meeting（大崎市）	全国環境研協議会による酸性雨全国調査結果について	松本利恵
H24. 9. 11	第19回全国越境大気汚染・酸性雨対策連絡会議（東京都千代田区）	酸性雨全国調査における乾性沈着量の推計について	松本利恵
H24. 9. 20	The 8th Japan-Korea Environment Symposium (Saitama, Japan)	Observation of fine particulate matter at the top of Mt. Fuji, the highest in Japan and status of PM _{2.5} in Tokyo Metropolitan area	S. Yonemochi
H24. 9. 20	The 8th Japan-Korea Environment Symposium (Saitama, Japan)	A study on contamination with PFOS, PFOA and their precursors in rivers in Saitama Prefecture	M. Motegi, K. Nojiri Y. Horii, S. Hosono
H24. 9. 20	The 8th Japan-Korea Environment Symposium (Saitama, Japan)	On-site speciation analysis for inorganic arsenic in groundwater by anodic stripping voltammetry	T. Ishiyama, S. Hachinohe, H. Hamamoto, H. Shiraishi, S. Hosono
H24. 9. 21	平成24年度全国環境研協議会関東甲信静支部大気専門部会（浜松市）	トラブルの解決に向けた取組－付着物・降下物を中心として－	佐坂規規
H24. 10. 12	湧水保全フォーラム全国大会inさいじょう（愛媛県）	絶滅危惧種ムサシトミヨの再導入の経過報告	金澤光
H24. 10. 23	平成24年度全国環境研協議会廃棄物資源循環学会年会併設研究発表会（仙台市）	模擬埋立地における内部反応と浸透性反応層導入効果	鈴木和将、磯部友護、長谷隆仁、川寄幹生、長森正尚、渡辺洋一、小野雄策 ¹¹⁴⁾ 、遠藤和人 ¹⁰⁾ 、山田正人 ¹⁰⁾

期 日	発表会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者
H24. 10. 26	II型研究「有機フッ素化合物の環境汚染実態と排出源について」研究推進会議（東京都江東区）	排水処理施設放流水と市販品のPFOS、PFOA及びそれらの前駆物質の調査	茂木守
H24. 11. 1	平成24年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会（さいたま市）	五感による河川環境指標～川の好感度チェックの策定	田中仁志
H24. 11. 3	旭川源流大学希少生物保全セミナー（岡山市）	埼玉県熊谷市内の水路におけるシジミ類の分布と生息環境	田中仁志
H24. 11. 3	旭川源流大学希少生物保全セミナー（岡山市）	水質と水生生物生息環境の両面からの河川環境改善技術の開発	木持謙
H24. 11. 4	旭川源流大学希少生物保全セミナー（岡山市）	イシガイ類が生息する岡山市内の旭川水系の水路における水質調査	田中仁志
H24. 11. 4	旭川源流大学希少生物保全セミナー（岡山市）	地域住民の参加による里川再生技術の開発	木持謙
H24. 11. 9	第30回埼玉県環境計量協議会研究発表会（さいたま市）	LC/MS/MSによる環境水中のヘキサメチレンテトラミンの分析	柿本貴志、茂木守、野尻喜好
H24. 11. 13	地中熱利用促進地域交流2012岐阜（岐阜市）	地中熱ポテンシャル評価と地質情報の活用－埼玉県を事例として－	八戸昭一、濱元栄起、白石英孝、石山高、佐竹健太
H24. 11. 19	3rd SALSA Workshop (Kashiwa, Japan)	行政ニーズの把握と陸面モデルの改良	増富祐司
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	温度ロガーによるツバメの繁殖状況の測定、原発事故避難地域のツバメの生息状況	神山和夫 ¹²⁵⁾ 、嶋田知英
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	埼玉県における里山の土地利用変遷	嶋田知英
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	埼玉県に生息する魚類の分布について	金澤光
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	ムサントミヨ保護事業	金澤光
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	埼玉県奥秩父のブナ林に及ぼすオゾンの影響－大気中オゾン濃度からの推定－	三輪誠
H24. 11. 19	第15回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)（さいたま市）	浅い富栄養化湖沼山ノ神沼における底層環境調査	田中仁志、古田世子 ⁹⁸⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾
H24. 11. 21	第39回環境保全・公害防止研究発表会（熊本市）	底質中の植物プランクトンの再活性化に及ぼす光照度の影響	田中仁志、古田世子 ⁹⁸⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾
H24. 11. 21	第39回環境保全・公害防止研究発表会（熊本市）	琵琶湖沿岸帯の底泥を用いた藻類の回帰実験結果について	古田世子 ⁹⁸⁾ 、藤原直樹 ⁹⁸⁾ 、一瀬諭 ⁹⁸⁾ 、田中仁志、馬場大哉 ¹¹⁰⁾ 、宮田直幸 ¹²⁶⁾ 、岸本直之 ¹¹¹⁾ 、西村修 ⁵⁸⁾
H24. 11. 22	第39回環境保全・公害防止研究発表会（熊本市）	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一

期 日	発表会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者
H24. 11. 22	第39回環境保全・公害防 止研究発表会（熊本市）	最終処分場・不法投棄現場における比抵抗探 査	磯部友護、川寄幹生、 渡辺洋一
H24. 11. 22	第39回環境保全・公害防 止研究発表会（熊本市）	USB顕微鏡を用いた建材中アスベストの判定方 法	渡辺洋一、川寄幹生、 磯部友護、鈴木和将
H24. 11. 22	第39回環境保全・公害防 止研究発表会（熊本市）	河川水のTOC計測における懸濁物質の影響	高橋基之、池田和弘、 亀田豊 ³⁵⁾
H24. 12. 13	統計数理研究所研究報告 会（立川市）	ダイオキシン類汚染源データへの星座グラフ法 の適用	養毛康太郎
H24. 12. 13	統計数理研究所研究報告 会（立川市）	水環境中揮発性メチルシロキサンの分析	堀井勇一
H24. 12. 19	数学・数理学と諸科学・ 産業との連携ワークショップ 「気候モデルの農業へ の応用」 （東京都千代田区）	陸面過程モデルへの作物生長モデルの組み 込み	増富祐司
H24. 12. 30	International Conference on Sustainable Energy and Environmental Engineering (ICSEEE 2012) (Guangzhou, China)	A primary study on assessment of phytoremediation potential of biofuel crops in heavy metal contaminated soil	K. Oh, T. Li ²⁰⁾ , H.Y. Cheng ²⁰⁾ , X.F. Hu ¹⁴⁾ , Q. Lin ²¹⁾ , Y.H. Xie ²⁰⁾
H25. 1. 17	平成24年度水道研修会 （さいたま市）	西秩父桃湖（合角ダム）の水質と植物プランク トン	高橋基之、田中仁志
H25. 1. 27	NPO法人富士山測候所を 活用する会第6回成果報 告会（東京大学）	富士山頂、上海および首都圏で同時採取した PM ₁ の組成と磁気的特徴	米持真一、王効挙、 梅沢夏実、大河内博 71)、名古屋俊士 ⁷¹⁾ 、 緒方裕子 ⁷¹⁾ 、原田侑 己 ⁷¹⁾ 、柳本悠輔 ⁷¹⁾ 、 城裕樹 ¹⁰¹⁾ 、S. Lu ¹⁴⁾ 、 R. Zhang ¹⁴⁾
H25. 1. 31	廃棄物資源循環学会埋立 処理処分研究部会シンポ ジウム（北海道大学）	テストセルによる長期水質モニタリング結果	渡辺洋一
H25. 2. 19	地下水地盤環境に関する 研究協議会（大阪市）	陸域及び海域における地下温度調査	濱元栄起
H25. 2. 20	化学物質セミナー「化学 物質のモニタリング手法と その応用 ―残留性有機 汚染物質を例に―」 （環境科学国際センター）	新規PBT候補物質：揮発性メチルシロキサンの 環境分析法開発について	堀井勇一、養毛康太 郎、大塚宜寿、茂木 守、野尻喜好
H25. 2. 21	全環研協議会関東甲信静 支部騒音振動専門部会研 究連絡会（平塚市）	低周波音の調査事例について	白石英孝
H25. 2. 27	KANAME研究集会 in 箱 根（神奈川県箱根町）	南海トラフ海域の熱流量分布と沈み込むプレー トの構造	山野誠 ⁴⁵⁾ 、川田佳史 ⁴⁵⁾ 、後藤秀作 ²⁶⁾ 、濱元 栄起
H25. 3. 13	第47回水環境学会年会併 設全国環境研究協議会研 究集会（大阪工業大学）	利根川水系ホルムアルデヒド水質事故における 緊急対応と原因究明	高橋基之、田中仁志、 木持謙、見島伊織、 柿本貴志、池田和弘、 野尻喜好、茂木守、 細野繁雄

期 日	発表会の名称	発 表 タ イ ト ル	発表者及び 共同研究者
H25. 3. 14	2013 Blue Earth (東京海洋大学)	紀伊半島沖南海トラフ底の熱流量分布-沈み込 む四国海盆の地殻構造との関係-	山野誠 ⁴⁵⁾ 、川田佳史 ⁴⁵⁾ 、後藤秀作 ²⁶⁾ 、濱元 栄起
H25. 3. 17	第17回荒川流域再生シン ポジウム・入間川の再生と 天然アユ復活を目指して (日高市)	4年間のアユの遡上環境調査の結果報告	金澤光
H25. 3. 19	関東地方大気環境対策推 進連絡会浮遊粒子状物質 調査会議講演会(横浜市)	全国の地環研と国環研によるPM2.5実態解明お よび発生源寄与評価の取り組みと、2011年11月 に関東で観測されたPM2.5高濃度の解析	長谷川就一
H25. 3. 30	Conference on Sri Lanka Japan Collaborative Research (SLJCR 2013) (Kandy, Sri Lanka)	Monitoring of existing waste landfill sites and those surroundings in Sri Lanka	M. Nagamori, Y. Isobe, Y. Watanabe, M.I.M. Mowjood ⁴⁸⁾ , N.H. Priyankara ¹²⁷⁾ , G.B.B. Herath ⁴⁸⁾ , L.C. Kurukulasuriya ⁴⁸⁾ , M. Vithanage ¹²⁸⁾ , T. Koide ⁶⁾ , K. Kawamoto ⁶⁾ , N. Tanaka ⁶⁾

(注) 共同研究者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5. 4. 6 報告書

(7件)

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
ストップ温暖化・埼玉ナビゲー ション2050推進事業 平成23年度二酸化炭素濃度観 測結果	埼玉県環境部温暖 化対策課 埼玉県環境科学国 際センター	全章	武藤洋介	H24	222頁
埼玉県温室効果ガス排出量推 計報告書 2009年度確報値 2010年度速報値	埼玉県環境部温暖 化対策課 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 増富祐司 竹内庸夫	H24	222頁
ストップ温暖化・埼玉ナビゲー ション2050推進事業 埼玉県温度実態調査報告書 (平成23年度)	埼玉県環境部温暖 化対策課 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司	H24	222頁
埼玉县市町村温室効果ガス排 出量推計報告書	埼玉県環境部温暖 化対策課 埼玉県環境科学国 際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 増富祐司 竹内庸夫	H24	222頁
第5次酸性雨全国調査報告書 (平成22年度)	全国環境研協議会 酸性雨広域大気汚 染調査研究部会	5.3 乾性沈着量の推計 (pp.36~42)	松本利恵	H24	223頁

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
平成23年度希少野生生物保護事業報告書	埼玉県環境科学国際センター	1章 飼育下での繁殖試験 2章 地下水の水温 3章 地下水採取量 4章 生息地における水質測定結果 5章 生息地における底生生物調査 6章 移植適地調査 7章 生息地の環境改善の取り組み 等全章	金澤光	H24	223頁
第4回MLAP技能試験報告書	(社)日本環境測定分析協会	全章	大塚宜寿 ほか	H25	223頁

5.4.7 書籍

(2件)

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
よみがえる富士山測候所2005-2011	成山堂書店	第2部第3章 (pp.99~100)	米持真一	H24
埼玉県地質地盤資料集	埼玉県環境科学国際センター	I ボーリング柱状図集 (pp.4~735) III 地下温度データ集 (pp.761~775) IV 地下水質データ集 (pp.777~788)	八戸昭一 濱元栄起 石山高 白石英孝 佐坂公規 高橋基之 細野繁雄 佐竹健太 宮越昭暢 ²⁶⁾ 林武司 ⁵⁷⁾ 山野誠 ⁴⁵⁾ 安原正也 ²⁶⁾	H25

(注) 共同執筆者の所属機関名は225ページに一覧にした。

5.4.8 センター報

(4報)

種別	タイトル	執筆者	掲載号
資料	埼玉県におけるサギ類の生息実態と生息モデルの検討	嶋田知英	第12号、72-75 (2012)
資料	堂平山観測所における二酸化炭素高濃度事例解析について	武藤洋介	第12号、76-79 (2012)
資料	大気中のガス状および粒子状水溶性無機成分濃度の夏期調査	松本利恵、米持真一、梅沢夏実	第12号、80-84 (2012)
資料	絶滅危惧魚類ムサシトミヨのミトコンドリアDNAマーカーの作製とその生息地への適用	三輪誠、金澤光	第12号、85-88 (2012)

5.5 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

(13件)

期 日	講 義 内 容	講義場所	氏 名
H24年度前期	埼玉大学工学部非常勤講師 「有機化学概論」	埼玉大学	坂本和彦
H24年度	埼玉大学環境科学研究センター客員教授	埼玉大学	坂本和彦
H24年度前期	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「海洋環境学特論」	埼玉大学	木幡邦男
H24年度後期	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「流域における水・物質循環特論」	埼玉大学	木幡邦男
H24年度前期	埼玉大学工学部非常勤講師 「化学序説」	埼玉大学	米持真一
H24年度後期	高崎経済大学地域政策学部非常勤講師 「自然科学概論」	高崎経済大学	長谷川就一
H24年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」、「大気環境測定演習」、「汚染負荷評価」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	三輪誠
H24年度後期	東洋大学理工学部非常勤講師 「水環境化学／水環境学」	東洋大学	高橋基之
H24年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「水環境学」	埼玉大学	柿本貴志 池田和弘 田中仁志 木持謙
H24. 11. 12	早稲田大学大学院創造理工学研究科招聘講師 「健全な水循環と水源保全」	早稲田大学	高橋基之
H24. 12. 4	明星大学理工学部非常勤講師 「アジア地域における水環境の現状と保全・修復のための国際協力」	明星大学	木持謙
H24年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」、「水環境汚染特論」、「土壌地下水汚染特論」	埼玉大学	石山高
H24年度後期	日本大学文理学部非常勤講師 「環境地質学」	日本大学文理 学部	八戸昭一

(2) 客員研究員

(17件)

相 手 機 関	委 嘱 期 間	氏 名
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4.26～H25. 3.31	木幡邦男
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	増富祐司
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	長谷川就一
中国遼寧大学環境学院	H22. 1. 1～H26.12.31	王効拳
中国上海大学	H22. 6. 1～H25. 6.30	王効拳
中国遼寧石油化大学生態環境研究院	H24.10. 1～	王効拳
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	渡辺洋一
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	長森正尚
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	川寄幹生
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	長谷隆仁
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	磯部友護
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	鈴木和将
独立行政法人 産業技術総合研究所	H24. 4. 2～H26. 3.31	堀井勇一
独立行政法人 国立環境研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	木持謙
立命館大学	H24. 4. 1～H25. 3.31	見島伊織
茨城大学	H24. 4. 1～H25. 3.31	見島伊織
東京大学地震研究所	H24. 4. 1～H25. 3.31	濱元栄起

(3) 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

(48件)

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
中央環境審議会	環境省	H23.1.6～H25.1.5	坂本和彦
中央環境審議会	環境省	H25.2.8～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気環境部会	環境省水・大気環境局	H23.1.6～H25.1.5	坂本和彦
中央環境審議会大気環境部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H23.1.6～H25.1.5	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会	環境省水・大気環境局	H25.2.14～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気環境部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H25.3.13～H27.2.7	坂本和彦
環境技術実証事業運営委員会	環境省総合環境政策局	H24.4.24～H25.3.29	坂本和彦
平成24年度環境測定分析検討会	環境省水・大気環境局	H24.4.13～H25.3.31	坂本和彦
環境技術実証事業VOC簡易測定技術分野WGグループ会合	環境省総合環境政策局	H24.7.1～H25.3.21	坂本和彦
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.11.5～H25.3.21	坂本和彦
南極環境実態把握モニタリングマニュアル作成検討委員会	環境省自然環境局	H24.7.11～H25.3.31	坂本和彦
揮発性有機化合物(VOC)由来の二次生成有機粒子分析方法調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.12.10～H25.3.29	坂本和彦
大気中微小粒子状物質成分測定マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H24.12.6～H25.3.31	坂本和彦
大気環境常時監視精度管理状況調査等に係る検討会	環境省水・大気環境局	H24.8.9～H24.12.28	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)に関する専門家会合	環境省水・大気環境局	H25.2.13～H25.2.27	坂本和彦
大気環境監視精度管理実態調査(SPM等)に係る検討会	環境省水・大気環境局	H25.3.3～H26.3.31	坂本和彦
さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市環境局	H23.7.8～H25.7.7	坂本和彦
千葉県環境審議会	千葉県環境生活部	H23.7.12～H25.7.11	坂本和彦
川崎市環境審議会	川崎市環境局	H24.3.1～H26.2.28	坂本和彦
中央環境審議会専門委員	環境省水・大気環境局	H23.10.12～	木幡邦男
「有明海生態系回復方策検討調査(生態系機能解明調査)業務」生態系回復方策検討委員会	環境省水・大気環境局	H24.5.22～H25.3.22	木幡邦男
有明海生態系回復方策検討調査(二枚貝類の環境浄化機能解明調査)検討委員会	環境省水・大気環境局	H24.5.31～H25.3.22	木幡邦男
皇居外苑濠水質管理検討会	環境省自然環境局	H24.5.31～H25.3.31	木幡邦男
気候変動による水質等への影響解明調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.10.1～H25.3.15	木幡邦男
生活環境項目新規基準等検討会	環境省水・大気環境局	H24.10.2～H25.3.22	木幡邦男
生活環境項目新規基準等検討会 衛生指標WG	環境省水・大気環境局	H24.10.2～H25.3.22	木幡邦男
生活環境項目新規基準等検討会 海域WG	環境省水・大気環境局	H24.9.28～H25.3.22	木幡邦男
生活環境項目新規基準等検討会 湖沼WG	環境省水・大気環境局	H24.9.28～H25.3.22	木幡邦男
春日部市環境審議会	春日部市環境経済部	H24.5.1～H26.4.30	木幡邦男
富山県環境審議会専門部会水環境専門部会	富山県生活環境文化部	H23.10.1～H24.6.26	木幡邦男
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.11.5～H25.3.21	竹内庸夫
微小粒子状物質等疫学調査研究検討会	環境省水・大気環境局	H24.6.11～H25.3.29	長谷川就一
微小粒子状物質等疫学調査実施班	環境省水・大気環境局	H24.6.11～H25.3.29	長谷川就一
微小粒子状物質(PM2.5)成分分析報告書作成検討会	環境省水・大気環境局	H24.5.31～H24.11.30	長谷川就一
大気中微小粒子状物質成分分析マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H24.11.30～H25.3.31	長谷川就一

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
微小粒子状物質等大気汚染物質に係る毒性学調査研究業務検討会	環境省水・大気環境局	H25.1.30～H25.3.22	長谷川就一
臭気判定士試験委員会	環境省水・大気環境局	H23.5.16～H25.3.31	梅沢夏実
さいたま市廃棄物処理施設専門委員会	さいたま市環境局	H24.4.1～H26.3.31	松本利恵
国内データ検証グループ	環境省水・大気環境局	H24.6.21～H25.3.31	松本利恵
微小粒子状物質(PM2.5)測定法評価検討会	環境省水・大気環境局	H24.11.30～H25.3.31	米持真一
大気環境常時監視精度管理状況調査等に係る検討会	環境省水・大気環境局	H24.8.22～H24.12.28	米持真一
大気環境監視精度管理実態調査(SPM等)に係る検討会	環境省水・大気環境局	H25.3.5～H26.3.21	米持真一
揮発性有機化合物(VOC)由来の二次生成有機粒子分析方法調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.12.14～H25.3.29	佐坂公規
利根川水系における取水障害に関する今後の措置に係る水質分析法検討会	環境省水・大気環境局	H24.12.14～H25.3.15	野尻喜好
地質情報の整備及び利用促進に関する検討会	経済産業省産業技術環境局	H25.1.21～H25.3.31	八戸昭一
埼玉圏央道建設発生土対策検討委員会	国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所	H24.6.6～H25.3.31	石山高
気候変動による水質等への影響解明調査検討会	環境省水・大気環境局	H24.10.1～H25.3.15	高橋基之
生活環境項目新規基準等検討会	環境省水・大気環境局	H24.10.1～H25.3.22	高橋基之

(4) 研修会・講演会等の講師

(142件)

期日	名称	開催場所	氏名
H24. 4. 20	鉄鋼環境基金助成研究<大気分野>成果報告講演会 「PM2.5の現状と課題」	東京都中央区	坂本和彦
H24. 4. 24	山西農業大学資源環境学院特別講演 「微小粒子による環境汚染～中国上海と日本の比較～」 「汚染土壌の有効利用と植物修復」	山西農業大学	米持真一 王効挙
H24. 4. 30	入間川アユ標識放流技術指導(NPO法人荒川流域ネットワーク)	飯能市	金澤光
H24. 5. 11	平成24年度第1回水環境研修 「分析操作の概要、測定値の算出方法、野帳の見方について」 (BOD、シアン、六価クロム)	環境科学国際センター	高橋基之 木持謙 柿本貴志
H24. 5. 12	鴻巣の環境を考える会記念講演会 「鴻巣市の元荒川に遡上する回遊魚の生態について」	鴻巣市	金澤光
H24. 5. 12	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H24. 5. 13	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H24. 5. 19	サイサン環境保全基金評議委員会講演 「ムサシトミヨの生息環境と課題について」	熊谷市	金澤光
H24. 5. 21	彩の国いきがい大学伊奈学園「生物多様性とその保全の概要」	伊奈町	嶋田知英
H24. 5. 22	アサガオ調査説明会	狭山市	三輪誠
H24. 6. 1	小・中学校における持続可能な開発教育のための教育(ESD)の 取り組み状況に関する調査研究・第1回研究協力委員会 「これからの環境教育に必要な視点についてー今日の環境教育 に必要な視点についてー」	熊谷市	坂本和彦
H24. 6. 2	男堀川の生物観察会	本庄市	金澤光 木持謙
H24. 6. 6	藤田小学校総合学習 小山川と元小山川の生き物調査講師	本庄市立藤田小学校	金澤光
H24. 6. 7	彩の国いきがい大学伊奈学園「埼玉の水環境と里川の再生」	伊奈町	高橋基之

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H24. 6. 8	鴻巣市立川里中学校 出前講座「地球のなりたち」	環境科学国際センター	濱元栄起
H24. 6. 10	春日部高校SSH 里川再生クリニック「屋久島の水質調査」	環境科学国際センター	高橋基之
H24. 6. 12	松山高校SSH 出前講座「埼玉県の酸性雨」	埼玉県立松山高校	松本利恵
H24. 6. 13	本庄市立藤田小学校総合学習 小山川と元小山川の生き物調査講師	本庄市立藤田小学校	金澤光
H24. 6. 13	石綿含有建材に係わる研修会(産業廃棄物指導課)	環境科学国際センター	川寄幹生
H24. 6. 14	彩の国いきがい大学伊奈学園 「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	竹内庸夫
H24. 6. 16	川のリーダー養成講習会(河川環境管理財団) 「川という自然の理解」	長瀬町	金澤光
H24. 6. 16	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H24. 6. 17	田んぼの生き物調査講師(川島地区さいたまコープ主催)	川島町	金澤光
H24. 6. 20	ムサシトミヨをまもる会総会 「平成23年度ムサシトミヨ保護事業について」	熊谷市	金澤光
H24. 6. 24	柳瀬川生き物調査講師(富士見市水谷東公民館主催)	富士見市、新座市、 所沢市	金澤光
H24. 6. 26	本庄市立仁手小学校総合学習 「本庄の生き物と水質について」	本庄市立仁手小学校	金澤光
H24. 6. 26	静岡県立大学薬食生命科学総合学府環境科学専攻月例セミナー 「光化学オキシダントによる植物影響に関する調査・研究ー 埼玉県環境科学国際センターにおける取り組みを中心にー」	静岡県立大学	三輪誠
H24. 6. 27	電源開発(株)東日本支店環境月間行事講演会 「地球環境問題の概要」	川越市	竹内庸夫
H24. 6. 28	桶川市篠津地区田んぼの生き物調査講師(桶川市立加納小学校、 桶川市、さいたま農林振興センター)	桶川市	金澤光
H24. 6. 29	テイ・エステック(株)研修会 「生物多様性とその保全の概要」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 7. 4	本庄市立南小学校総合学習 「女堀川の生き物と水質」	本庄市立本庄南小学校	金澤光
H24. 7. 7	男堀川の生物観察会	本庄市	金澤光 木持謙
H24. 7. 8	小川町 田んぼのいきもの観察会	小川町	嶋田知英
H24. 7. 9	ムサシトミヨ保全推進協議会総会 「平成23年度ムサシトミヨ保護事業について」	熊谷市	金澤光
H24. 7. 16	県民実験教室 「大気の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	松本利恵 佐坂公規
H24. 7. 21	環境科学国際センター 夏休み特別企画 「川の生物で環境調査をしよう」	環境科学国際センター	田中仁志
H24. 7. 22	ムサシトミヨ自然観察会講師(ムサシトミヨ保全推進協議会主催)	熊谷市	金澤光
H24. 7. 23	JICA廃棄物管理セミナー 「廃棄物総合管理及び3R」	環境科学国際センター	川寄幹生
H24. 7. 24	大気規制に係る分析測定研修会(大気環境課) 「ばい煙測定の留意点及び測定データの読み方」 「石綿の分析方法の概要、実地研修」 「VOCの測定方法の概要、実地研修」 「ダイオキシン類の分析方法に係る留意点、測定結果の見方 等」	環境科学国際センター	竹内庸夫 佐坂公規 大塚宜寿
H24. 7. 25	久喜市環境課 生態園自然観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 7. 25	AGCポリマー建材(株)研修会 「化学物質と私たちの暮らし」	久喜市	野尻喜好
H24. 7. 26	夏休み公開講座 「田んぼの生きもの調査」	加須市	金澤光
H24. 7. 28	高麗川アユ地曳き網調査技術指導(NPO法人荒川流域ネットワ ーク)	坂戸市	金澤光

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H24. 7. 29	環境科学国際センター 夏休み特別企画 「身近な水の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	高橋基之
H24. 7. 31	平成24年度環境教育プログラムコーディネイト研修会 「これからの環境教育に必要な視点についてー今日の環境問題と視点ー」	環境科学国際センター	坂本和彦 嶋田知英
H24. 7. 31	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の里川」	熊谷市	高橋基之
H24. 8. 1	行田市教育委員会小中学校環境教育主任者研修会 「地球温暖化(影響と対策)」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 8. 1	夏休み特別企画 「化学マジック」	環境科学国際センター	大塚宜寿 茂木守
H24. 8. 3	加須市環境政策課主催「浮野の里」自然観察会 「昆虫観察」	加須市	嶋田知英
H24. 8. 4	環境科学国際センター生態園体験教室 「昆虫の標本を作ろう」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 8. 4	小山川・元小山川清流ルネッサンスⅡ 「川の探検隊」	本庄市	金澤光 木持謙
H24. 8. 4	飯盛川生きもの探し隊講師	鶴ヶ島市	金澤光
H24. 8. 5	ムサシトミヨ自然観察会講師(ムサシトミヨ保全推進協議会主催)	熊谷市	金澤光
H24. 8. 8	夏休み特別企画 「化学マジック」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H24. 8. 8	加須市環境政策課主催「浮野の里」自然観察会 「水生生物観察」	加須市	田中仁志 木持謙
H24. 8. 10	夏休み特別講座 「土の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	石山高 八戸昭一 磯部友護
H24. 8. 15	身近な環境観察局新規応募者研修会 「一般指標生物、ハンノキ・ミドリシジミ調査」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 8. 15	夏休み特別企画 「化学マジック」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H24. 8. 19	都幾川アユ地曳き網調査技術指導(NPO法人荒川流域ネットワーク)	嵐山町	金澤光
H24. 8. 22	夏休み特別企画 「化学マジック」	環境科学国際センター	大塚宜寿 堀井勇一
H24. 8. 25	彩の国環境大学平成24年度開講式公開講座 「微粒子ー粉ミルクから地球環境までー」	環境科学国際センター	坂本和彦
H24. 8. 28	上尾市環境推進協議会 平成24年度第1回環境問題学習会 「石綿(アスベスト)について考える」	上尾市	佐坂規規
H24. 8. 29	夏休み特別企画 「化学マジック」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H24. 8. 30	鴻巣市民大学講座・こうのとりアカデミー 「埼玉の湧水と名水 ～水の価値と利用を考える～」	鴻巣市	高橋基之
H24. 8. 30	元小山川浄化活動推進実行委員会研修会 「埼玉県における土壌・地下水汚染の現状と取り組み」	環境科学国際センター	石山高
H24. 9. 4	松山高校SSH 出前講座「私たちの生活と化学物質」	埼玉県立松山高校	野尻喜好
H24. 9. 4	本庄市市民総合大学 「埼玉の水環境」	本庄市	柿本貴志
H24. 9. 4	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の地盤環境」	熊谷市	八戸昭一
H24. 9. 5	いきがい大学鷺宮学園32期「エコクラブW32」視察研修会 「埼玉の水環境」	環境科学国際センター	柿本貴志
H24. 9. 7	春日部市庄和地区市民大学 「埼玉県の水環境と保全と再生」	春日部市	柿本貴志
H24. 9. 9	子ども大学ほんじょう 【ふるさと学】川に入って魚を捕まえよう！	本庄市	金澤光 木持謙

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H24. 9. 16	越辺川アユ地曳き網漁技術指導 (NPO法人荒川流域ネットワーク)	鳩山町	金澤光
H24. 9. 22	いい川・いい川づくりワークショップ実行委員 「埼玉県に生息する魚類」	東京都渋谷区	金澤光
H24. 9. 27	白岡高等学校環境学習講演会 「地球環境問題の概要」	埼玉県立白岡高校	竹内庸夫
H24. 10. 2	彩の国いきがい大学春日部学園 「埼玉の水環境」	春日部市	見島伊織
H24. 10. 6	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の温暖化の実態とその影響」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 10. 10-11	公害防止主任者資格認定講習(水質関係)	さいたま市	見島伊織 木持謙 柿本貴志
H24. 10. 11	皆野町環境衛生委員協議会研修 「地球温暖化(影響と対策)」	環境科学国際センター	増富祐司
H24. 10. 15	JICA課題別研修「気候変動への適応」コース 「地方公共団体による気候変動適応に関する取り組み」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 10. 16-17	公害防止主任者資格認定講習(大気関係)	さいたま市	梅沢夏実 佐坂公規 長谷川就一
H24. 10. 16	遼寧石油化工大学生態環境研究院特別講演 「汚染土壌の植物修復に関する研究」	中国遼寧石油化工大学	王効挙
H24. 10. 16	ムサシトミヨ繁殖調査技術指導	熊谷市立佐谷田小学校	金澤光
H24. 10. 18	ムサシトミヨ繁殖調査技術指導	熊谷市立熊谷東中学校	金澤光
H24. 10. 18	富士見工業団地研修会 「富士見工業団地周辺環境調査結果について」	行田市	茂木守
H24. 10. 18	公害防止主任者資格認定講習(ダイオキシン類関係)	さいたま市	大塚宜寿
H24. 10. 19	春日部市庄和地区市民大学 「地球温暖化の埼玉県への影響」	環境科学国際センター	嶋田知英
H24. 10. 20	男堀川環境保全調査講師	本庄市	金澤光
H24. 10. 20	彩の国環境大学基礎課程 「気になる暮らしの化学物質」	環境科学国際センター	野尻喜好
H24. 10. 22	平成24年度水環境研修(埼玉県環境部水環境課主催) 「五感による河川環境指標」「水生生物について」	秩父市	田中仁志 木持謙
H24. 10. 25	彩の国いきがい大学伊奈学園 「酸性雨について」	伊奈町	松本利恵
H24. 10. 25	川越狭山工業団地研修会 「川越狭山工業団地周辺環境調査結果について」	狭山市	大塚宜寿
H24. 10. 25	NPO法人グリーンサイエンス21・第15回市民大学 「蛍光分析による溶存有機物の測定」	東京都千代田区	高橋基之
H24. 10. 26	逆木の池魚類調査技術指導	鶴ヶ島市	金澤光
H24. 10. 26	長若小学校総合学習 「日常生活と水環境」ー私たちに何ができるかー	小鹿野町立長若小学校	田中仁志
H24. 10. 26	公害防止主任者資格認定講習(騒音・振動関係)	さいたま市	白石英孝 濱元栄起
H24. 10. 27	彩の国環境大学基礎課程 「健全な水循環と里川の再生」	環境科学国際センター	高橋基之
H24. 10. 30	加須市立大利根中学校総合学習 「地球環境問題の概要」	加須市立大利根中学校	竹内庸夫
H24. 10. 31	本庄市立藤田小学校総合学習 「河川・水生生物調査」	本庄市	金澤光 木持謙
H24. 11. 2	第56回「生活と環境全国大会」環境保全分野公開講座 「私たちの暮らしと大気汚染」	名古屋市	坂本和彦
H24. 11. 3	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の大気環境」	環境科学国際センター	竹内庸夫

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H24. 11. 5	Working Lunch of Division of Atmospheric Science "Development of Bio-briquetting Technology and Its Application: EFFECTIVE MEASURE FOR THE MITIGATION OF CLIMATE CHANGE - Locally Sustained Cyclic System for Environmental Protection Using Coal/Biomass/Slaked Lime Briquette and Its Combustion Ash -" "Observation of fine particulate matter (PM2.5 and PM1) at the top of Mt. Fuji, the highest in Japan and status of PM2.5 in Tokyo metropolitan area"	Desert Research Institute (Reno, Nevada, USA)	坂本和彦 米持真一
H24. 11. 7	藤田小学校総合学習 「小山川と元小山川の調査結果」	本庄市立藤田小学校	金澤光
H24. 11. 8	いきがい大学春日部学園 「埼玉県の大気環境」	春日部市	梅沢夏実
H24. 11. 8	ムサシトミヨ繁殖調査技術指導	熊谷市立久下小学校	金澤光
H24. 11. 9	第30回埼玉環境計量協議会研究発表会 「水環境に関する動向」	さいたま市	木幡邦男
H24. 11. 9	越谷市街づくり協議会出前講座 「埼玉県の地盤と地域環境特性—大地の性質に調和した新しい まちづくりに向けて—」	越谷市	八戸昭一
H24. 11. 10	彩の国環境大学修了生の会環境講座 「生物多様性とその保全の概要」	春日部市	嶋田知英
H24. 11. 14	県民の日特別企画 「サイエンスショー -196℃の世界」	環境科学国際センター	梅沢夏実 佐坂公規
H24. 11. 22	熊谷東中学校総合学習 「地球環境問題の概要」	熊谷市立熊谷東中学校	竹内庸夫
H24. 11. 28	水質事故講習会 「魚類のへい死事故対応」	朝霞市	金澤光
H24. 12. 1	川の国埼玉検定(中上級編) 講義	さいたま市	高橋基之
H24. 12. 1	加須市子ども会育成連絡会研修会 「日常生活と水環境」	加須市	木持謙
H24. 12. 5	彩の国いきがい大学伊奈学園 「土壌汚染と植物による修復」	伊奈町	王効挙
H24. 12. 6	彩の国いきがい大学伊奈学園 「生物多様性とその保全の概要」	伊奈町	嶋田知英
H24. 12. 9	留日学者と21世紀中国の発展検討会特別講演 「土壌汚染と植物修復技術について」	昭和大学	王効挙
H24. 12. 11	旭小学校環境学習会 「生態系の講義(絶滅危惧種、外来生物等)」	本庄市立旭小学校	嶋田知英
H24. 12. 11	山ノ神沼を守る会「山ノ神沼の歴史を知る」 「浅い富栄養化湖沼山ノ神沼における底層環境調査」	蓮田市	田中仁志
H24. 12. 12	BOD分析に関する技術講習会 「埼玉県の精度管理調査(BOD)の経緯と分析上のポイントにつ いて」	さいたま市	見島伊織
H24. 12. 15	出前講座 「埼玉県における生物多様性保全の取り組み」	埼玉県立いずみ高校	三輪誠
H24. 12. 17	(一財)日本自動車研究所(JARI)平成24年度第3回講演会 「大気粒子状物質汚染の変遷—バイオマス由来微小有機粒子 の大気動態とPM2.5への寄与—」	東京都千代田区	坂本和彦
H24. 12. 21	環境化学特論 「環境中の化学物質の挙動」	神奈川大学	堀井勇一
H24. 12. 26	上海大学環境与化学工程学院国際環境セミナー 「バイオ燃料用植物による汚染土壌修復の研究について」	中国上海市	王効挙
H25. 1. 7	彩の国いきがい大学鷺宮学園 「地球温暖化に対する取り組みと課題」	久喜市	嶋田知英
H25. 1. 18	さいたま市技術職員研修(さいたま市建設局主催)	さいたま市	川寄幹生
H25. 1. 20	川の日ワークショップ関東大会選考委員「あらかわ学会」	川口市	金澤光
H25. 1. 23	田園都市づくり協議会環境専門部会研修会 「埼玉県における土壌・地下水汚染の現状と取り組み」	幸手市	石山高

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 1. 25	中国環境科学研究院国際環境セミナー 「埼玉県における大気汚染物質濃度の推移とその特徴」 "Comparison of chemical components in submicron aerosol(PM1) between Shanghai and Japan including the top of Mt. Fuji" 「工業地域・農村地域におけるダイオキシン類の大気降下動態に関する研究」	中国北京市	梅沢夏実 米持真一 王効挙
H25. 1. 26	彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 「私たちの暮らしと地質地盤環境」	環境科学国際センター	八戸昭一
H25. 1. 28	上海市環境科学研究院講演会 "Long-term observation of PM2.5 in Saitama and Characterization of PM2.5 in Kanto area, Japan"	中国上海市	米持真一
H25. 1. 28	上海大学環境与化学工程学院講演会 "Charactreization of fine particulate matter collected at Shanghai, the top of Mt. Fuji and Kanto area in Japan, an application of magnetic separation to them"	中国上海市	米持真一
H25. 2. 1	平成24年度埼玉県環境科学国際センター講演会 「埼玉県における二酸化炭素濃度の推移 －WMO標準ガスを基準とした精密観測について－」 「県内河川における残留性有機フッ素化合物の汚染実態 －PFOS、PFOAと前駆物質について－」 「地中熱利用システムのためのポテンシャル評価 －地中熱エネルギーの活用について－」	さいたま市	武藤洋介 茂木守 濱元栄起
H25. 2. 5	蓮田市環境教育主任現地研修会 「地球温暖化(影響と対策)」	環境科学国際センター	増富祐司
H25. 2. 12	大幡中学校環境学習 「日常生活と水環境」	熊谷市立大幡中学校	木持謙
H25. 2. 14-15	平成24年度産業廃棄物処理等技術研修会 「一般廃棄物処理について」「焼却の基礎&トピック」 「アスベスト調査の基礎と見分け方の実技講習」 「現場調査と対策事例」	岡山市	川寄幹生 磯部友護 鈴木和将
H25. 2. 15	日本水環境学会関東支部見学会 「利根川水系におけるホルムアルデヒド水質事故の対応と教訓」	行田市	高橋基之
H25. 2. 16	身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会 「埼玉県の酸性雨調査について」 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」	環境科学国際センター	松本利恵 三輪誠
H25. 2. 20	羽生市環境講座 「生物多様性とその保全」	羽生市	嶋田知英
H25. 2. 22	フィリピンにおける合併浄化槽の整備技術に関する研修 「合併浄化槽における省エネ化と高度化による環境保全再生」	さいたま市	木持謙
H25. 2. 26	PM2.5に関する研修会(埼玉県環境部大気環境課主催) 「PM2.5－環境基準設定から越境汚染まで－粒子状物質汚染の変遷とPM2.5の現状」 「長期通年観測から見た埼玉県のPM2.5の状況と越境汚染解明のための研究的取組」 「PM2.5の全国・関東地方での状況と発生源寄与推定および健康影響に関する概要」	さいたま市	坂本和彦 米持真一 長谷川就一
H25. 3. 11	NPO法人環境測定品質管理センター講演会「環境対策と測定法の新しい展開」 「ヘキサメチレンテトラミンによる水系汚染とその分析法」	東京都千代田区	野尻喜好
H25. 3. 19	PM2.5に関する勉強会 「PM2.5－基礎編？－」	東京都千代田区	坂本和彦
H25. 3. 19	平成24年度アスベスト圧縮固化工法協議会研修会(アスベスト圧縮固化工法協議会主催)「石綿含有建材の見分け方」	浜松市	川寄幹生

5.6 表彰等

大気環境学会論文賞

高橋克行¹³⁾、伏見暁洋¹⁰⁾、森野悠¹⁰⁾、飯島明宏⁶⁹⁾、米持真一、速水洋¹⁵⁾、長谷川就一、
田邊潔¹⁰⁾、小林伸治¹⁰⁾

表彰理由

大気環境学会誌Vol.46、No.3、pp.156-163(2011)に掲載された論文「北関東における微小粒子状物質のレセプターモデルと放射性炭素同位体比を組み合わせた発生源寄与率推定」は、北関東で捕集された大気中微小粒子状物質とその成分データにケミカルマスバランス法を適用して微小粒子の発生源推定を行い、更に炭素成分について放射性炭素同位体比を加速器質量分析計で測定し、一次生成粒子及び二次生成粒子の化石燃料起源と生物起源とに分離して推定した結果を報告したものである。放射性炭素同位体比をレセプターモデルに取り込むことによって微小粒子状物質の炭素成分の起源別推計が可能であることを示したものであり、今後の大気環境研究の発展に貢献するものとして評価された。

廃棄物資源循環学会奨励賞

川崎 幹生

表彰理由

地方環境研究所という職場環境を活かして、これまで現場に根ざした実用的な研究を展開してきている。特に、建設廃棄物に混入するアスベストの現場での迅速・簡易な判別方法を開発し、作業者の安全確保に直接的に役に立つ研究成果を上げていることが高く評価された。

日本水環境学会論文奨励賞(廣瀬賞)

見島 伊織

表彰理由

Journal of Water and Environment Technology, Vol.9, No.4, pp.359-369, 2011に発表した論文“Application of Iron Electrolysis to Full-Scale Activated Sludge Process for Phosphorus Removal”の研究成果の有用性およびそれを証明した完成度の高い研究成果とその将来性が高く評価された。

環境科学会優秀研究企画賞(富士電機賞)

堀井 勇一

表彰理由

提案した揮発性メチルシロキサンに関する研究企画「新規PBT候補物質:揮発性メチルシロキサンの環境排出実態と生態環境影響の評価」が、環境科学分野における新規性や注目度、社会的有用性、これまでの実績に基づく発展性などの観点から高く評価された。

全国環境研協議会関東甲信静支部長表彰

細野 繁雄

表彰理由

永年にわたり、ダイオキシン類や環境ホルモン等の化学物質調査に継続して携わり、ダイオキシン類の測定における煩雑な前処理操作の簡略化や迅速化を進め、この手順は現在も当所において使用されている。特に、古綾瀬川のダイオキシン類による底質の汚染については、その発覚当初から担当として関わり、汚染範囲の確定や汚染原因の推定に貢献した。